

ゼミナール

スポーツ・武道実践科学系

瓜田吉久	ゼミ	296
金高宏文	ゼミ	297
小澤雄二	ゼミ	298
濱田幸二	ゼミ	299
前阪茂樹	ゼミ	300
中村夏実	ゼミ	301
高橋仁大	ゼミ	302
竹中健太郎	ゼミ	303
三浦健	ゼミ	304
萬久博敏	ゼミ	305
松村勲	ゼミ	306
永原隆	ゼミ	307
塩川勝行	ゼミ	308
榮樂洋光	ゼミ	309
下川美佳	ゼミ	310
村上俊祐	ゼミ	311
坂中美郷	ゼミ	312
小森大輔	ゼミ	313
山下龍一郎	ゼミ	314
成田健造	ゼミ	315
藤井雅文	ゼミ	316
山口大貴	ゼミ	317

スポーツ生命科学系

堀内雅弘	ゼミ	318
田巻弘之	ゼミ	319
中垣内真樹	ゼミ	320
藤田英二	ゼミ	321
モハモド モニル	イスラム ゼミ	322
吉田剛一郎	ゼミ	323
廣津匡隆	ゼミ	324
沼尾成晴	ゼミ	325
高井洋平	ゼミ	326
與谷謙吾	ゼミ	327
宮崎輝光	ゼミ	328

スポーツ人文・応用社会科学系

山田理恵	ゼミ	329
森克己	ゼミ	330
森司朗	ゼミ	331
北村尚浩	ゼミ	332
関朋昭	ゼミ	333
和田智仁	ゼミ	334
浜田幸史	ゼミ	335
隅野美砂輝	ゼミ	336
中本浩揮	ゼミ	337
梶ちか子	ゼミ	338
中村勇	ゼミ	339
坂口俊哉	ゼミ	340
栗山靖弘	ゼミ	341

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)			授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	瓜田 吉久					補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次	受け入れ人数	－		
授業の概要	本ゼミナールは、陸上競技のパフォーマンス向上を目的に、練習やトレーニング等の中で生じる諸問題を取り上げ、問題の所産を分析・評価して課題を見つけ、課題解決のための糸口や方策（方法）を考えながら、新たな取り組みを見つけていくという能力を養うために行う。そのために、実践の場で生じる諸問題を拾い上げ、その内容を発表しながらディスカッションを繰り返し、練習やトレーニングに還元できる方法論を整理していくということが行われる。これらにより、体育専攻学生としてまた競技者としての能力の向上が期待される。また、卒業研究に向けて課題を明らかにできる能力や卒業研究に関する作業方法等も身につくことが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (科学的支援力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 ％
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	・授業並びに発表内容について理解している。 ・発表内容をもとに課題の設定と解決方法等の提案ができる。	○			○			40	
■情意的領域	・授業に主体的に参加し、意欲的に課題に取り組もうとする。 ・授業の意義を理解し、内容を追求、探究しようとしている。	○						20	
■技能的領域	・適切なプレゼンテーションができる。 ・論理的に内容をまとめ発信することができる。 ・他者と積極的・建設的に意見交換が行える。	○			○			40	
成績評価の基準	3つの授業達成目標をもとに、授業や発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。								
テキスト、教材 参 考 書	授業の中で随時紹介する。								
履修条件・ 関連科目	陸上競技、陸上競技スポーツ論・実習等を履修しておくことが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		発表のための作業を行うため、ワード、エクセル、パワーポイントなどができるようになっていること。			
オフィス・アワー	月曜日：14時～15時 研究棟8階 802教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	瓜田 吉久	ゼミナールⅠ（2年生）1回～30回 各自、トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて資料収集を行い、分析、考察を加えて、自分の考えをまとめ発表する。発表内容に対する討論を行いながら演習を進める。				課題を設定し、発表の準備及び討論に備えて予習を行う。(1時間)			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年生）1回～30回 各自、トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて資料収集を行い、分析、考察を加えて、自分の考えをまとめ発表する。発表内容に対する討論を行いながら演習を進める。				課題を設定し、発表の準備及び討論に備えて予習を行う。(1時間)			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年生）1回～30回 発表内容を卒業研究としてまとめるために関連する資料を収集しながら討論を行い、併せて卒業研究作成のための方法を理解する。				卒業研究作成に関する作業を行う。(1時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))					
担当教員名	金高 宏文					補助担当者名	永原 隆					
単位数	4 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数	各7名					
授業の概要	本授業は、実践的スポーツ指導者、となるために必要な「動きを科学する」ための見識や測定スキルを教授する。具体的には、スポーツ運動の技術（コツ・カンも含む）や体力及びそのトレーニング方法に関する見識を深め、「バイオメカニクスの分析」あるいは「パフォーマンス分析」が行なえる研究スキルの修得を目指す。また、卒業研究に向けて受講生の関心があるテーマについて、先行研究を調べ、発表・討論し、新たな研究課題や問題を発見する中で、問題解決能力とコミュニケーション能力が高まることも期待している。その結果、受講生のスポーツのトレーニング、指導に合理性が身に付くことを期待している。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	・運動学及びトレーニングに関する基礎的な事項を説明できる。 ・自分自身の競技発達史について、運動学及びトレーニング学的視点より分析・評価する。	○		○						35
		■情意的領域	・運動やトレーニングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち、それを積極的にかつ協力して探求しようとする。	○								15
■技能的領域	・設定された時間内でパワーポイントでの発表ができる。 ・IT 及び図書館での文献検索ができる。 ・映像分析（動画編集、連続写真、時間分析）ができる。			○	○			50				
成績評価の基準	技術や体力、トレーニングに関する見識の深化、論理的な発表・討論力の習得及び各種測定・分析法の習得度を評価とする。											
テキスト、教材 参 考 書	i-PadもしくはPCを持参すること。授業の教材は、WebClassやメール等で配付する。なお、参考図書として「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法（大修館）」を推薦する。											
履修条件・ 関連科目	運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学概論、スポーツトレーニング実践論、運動学概論、コーチ学概論、トレーニング方法論・実習を履修しておくことが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		レポートの提出やパワーポイント発表を頻繁に行う。また、レポート作成や発表のために主体的に授業時間外に各種の測定等をする必要がある。さらに、色々な共同研究の補助員として児童・生徒及び選手における体力・運動能力等の測定に協力する場合がある。						
オフィス・アワー	水曜日：15：00～16：00、大学院棟3階、4教員研究室											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	金高 宏文	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・発育・発達データの収集と分析（PHV等の分析） ・運動発達史等の作成とスポーツ技能・戦術レベルの評価（コツ・カン分析） ・簡易なバイオメカニクスの測定・分析法の理解とデータ収集 ・体力・形態測定法の理解と継続的なデータ収集 ・プレゼンテーションの方法				発育発達データの収集・整理、運動発達史の作成・分析、体力・形態測定の実施、簡易な動作分析を実施し、それらのプレゼンテーション資料を作成する。						
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・発育・発達データの収集と分析（PHV等の分析） ・運動発達史等の作成とスポーツ技能・戦術レベルの評価（コツ・カン分析） ・バイオメカニクスの測定・分析法の理解とデータ収集・分析・解析 ・文献研究の行ない方とまとめ方 ・卒業研究のテーマの絞り込みと予備実験の企画・実施				授業課題や研究テーマに関する文献の収集・整理、予備実験の企画立案、実験準備、実験、データ分析・解析をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。						
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・文献研究結果のプレゼンテーションと討議。 ・卒業研究テーマについての本実験の企画案のプレゼンテーションと討議 ・実験結果のプレゼンテーションと討議 ・卒業研究の中間発表、本発表に向けてのプレゼンテーション練習				卒業論文作成のための本実験の企画案の作成、実験準備、実験、データの分析・解析、文献の収集・整理をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。						

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)			授業形態	演習		授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	小澤 雄二						補助担当者名	小崎 亮輔		
単位数	4 単位			履修年次	2～4年次		受け入れ人数	7名程度		
授業の概要	本授業をとおして柔道方法的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けることで、自らの競技力および指導力の向上のために活用すると共に、卒業論文にスムーズに着手できる準備をすることを目的とする。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	本授業における実験・検査結果や先行研究の報告を客観的に分析・理解し、それらに関連付け、柔道方法的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けることができる。	○		○	○			40
		■情意的領域	柔道方法的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けるにあたり、発表や討論に積極的に取り組み、自らの考えについて他者と意見交換することで、考えをより深めることができる。	○		○	○			30
	■技能的領域	柔道方法的な課題を見出し、身に付けた課題解決のための知識や手法を、自らの競技力および指導力の向上のために活用することができる。	○		○	○			30	
成績評価の基準	「主体的、対話的であったか」、「自らの考えを深められたか」、「柔道方法的な課題を自らの競技力および指導力の向上に活用できたか」などを総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	尾形敬史・小俣幸嗣、「柔道指導 Q & A」、道和書院 向井幹博・山口香、「ジュニアのための考える柔道」、東京書店 その他、適宜資料を配布									
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		柔道には様々な側面があります。柔道を専門とする皆さんには、敢えて多面的な視点も養ってほしい。				
オフィス・アワー	随時：502研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	小澤 雄二	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 柔道方法的な課題を見出すことを目的に、全身反応時間測定、バランステスト、人柄検査などを行う。さらに、その結果を分析し、導き出されたことをまとめて発表する。					結果の分析、まとめ、発表のための資料作成			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 柔道方法的な課題を見出すことを目的に、文献を検索し、各自が興味・関心のある先行研究を熟読した後に、内容をまとめて発表する。					先行研究の熟読、まとめ、発表のための資料作成。			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 各自が卒業論文の執筆に向けた柔道方法的なテーマを焦点化し、先行研究や研究の背景を踏まえた仮説を立て、それを検証する方法を選択し、まとめて発表する。					卒業論文テーマの焦点化、仮説の立脚、検証方法の選択、まとめ、発表のための資料作成			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))					
担当教員名	濱田 幸二					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		－					
授業の概要	コーチング（特に球技：バレーボール競技）に関する文献を検索・抄読を行い、戦術及び技術的ゲーム分析・バイオメカニクスの分析・心理学的分析から競技力向上に関するコーチングに結びつける。また、実践的なコーチングテクニックを身に付けるために、調査・実験から現場で活用できるコーチングを探索する。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (科学的支援力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	先行研究（文献）の抄読から、コーチングを多面から分析する能力を養う。	○		○							40
		■情意的領域	学会や研究会に参加し、最新の研究を知る。							○			20
		■技能的領域	知識をもとに、コーチングが出来るようになる。	○						○			40
成績評価の基準	授業への取り組みは、先行研究の抄録作成及び理解度を授業ごとに行う。 レポート等の提出状況は、年度末に論文形式1編でまとめとして作成し提出する。												
テキスト、教材 参 考 書	随時配付する。												
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰの履修が望ましい			備考(教員メッセージ含む)		特に球技種目全般に関して多方面からコーチングを研究します。その他コーチングに関して随時相談を受け付けます。							
オフィス・アワー	随時対応可 808教員室（濱田）、球技体育館準備室												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
1	濱田 幸二	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 各実験や調査に不可欠な統計の基礎知識を理解する。また、国内外におけるバレーボール関連の文献検索を行い、抄読会を行う。				ゲーム分析ソフトの使用法の習得 グラフ及び表の作成法の習得 映像解析ソフトの使用法の習得 抄読会予習・準備・復習（2時間）							
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 卒業研究のテーマを探るため、選手及び指導者から見て解明したいテーマを決める。 研究テーマに沿って先行研究の収集と理解から、予備実験（調査）を行い結果及び考察を行い次年度の卒業研究へつなげる。				研究テーマの選定を行うため先行研究の資料収集 先行研究：予習・準備・復習（2時間）							
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 研究テーマに沿って、より深く、より鮮明にするため、実験（調査）を行い、卒業研究を完成させる。またプレゼンテーション能力の向上も行う。				実験（調査）データの解析と考察 先行研究予習・準備・復習（2時間）							

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))					
担当教員名	前阪 茂樹					補助担当者名							
単位数	4 単位			履修年次	4年次		受け入れ人数		7				
授業の概要	この科目(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)は、武道／剣道の哲理・原理・指導法などのテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、学年進行に従って課題設定、解決、説明する能力を積み上げつつ身につける科目である。また、実技と理論の両面から積極的に取り組んでいくことにより、実技面での課題を浮き彫りにし、それらの解決策を模索することで、結果として自己教育能力を高め、総合領域としての武道学としての能力を育成することを目指している。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標				成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (実技力、実技指導力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	剣道の特性を深く理解し、他者に発信できる。	○		○				○			50
		■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に課題を見出し、その解決に努める態度が身につけている。	○		○				○			30
■技能的領域	自らの剣道実践における課題を設定し、追求することができる。	○		○	○			20					
成績評価の基準	体育学・武道学の知識、積極的な課題設定への取り組み、基本や形を中心とした技倆なども含めて総合的に評価する。												
テキスト、教材 参 考 書	提供する資料：沢庵宗彭 原著「不動智神妙録」、宮本武蔵 原著「五輪書」、全日本剣道連盟「剣道講習会資料」等 購入すべきテキスト：「剣道」(高野佐三郎著 現代語訳 監修・中村民雄 島津書房、1915,@3200)												
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する科目を履修していること。 専修武道論・実習(剣道)Ⅳを履修のこと。				備考(教員メッセージ含む)		剣道を、競技的側面＜伝統文化的側面で捉え、自らの稽古により体認しようと志す者を受け付ける。 指定されたテキストは必ず購入して下さい。						
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00～16：30、武道館2F 剣道教員室												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	前阪 茂樹	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 剣道の基礎的理論の学習 剣道や武道に関する文献検索 剣道実技実践演習					レポート作成等						
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 レポート作成のためのトレーニング 剣道(現代語訳版) 抄読 五輪書 抄読 剣道形 特別実習 剣道実技実践演習					レポート作成等						
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 剣道実技実践演習 不動智神妙録 抄読 猫の妙術 抄読 個々の課題設定に伴う研究／指導 剣道(現代語訳版) 抄読 五輪書 抄読 剣道形 特別実習 剣道実技実践演習					レポート作成等						

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))				
担当教員名	中村 夏実				補助担当者名	笹子 悠歩				
単位数	4 単位		履修年次	4年次	受け入れ人数	－				
授業の概要	現在の日本社会において、「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民の海洋への理解を深めるためにも、海洋スポーツ活動や水辺活動に造詣の深い人材が求められている。 ゼミナールでは、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズに応えられる能力、また、海上および水上環境においてテクノロジーを活用したコーチングができる能力の獲得を目指し、海洋スポーツに関する課題解決能力を養う。主に下記の実践活動および研究活動を展開する。 ○海洋スポーツプログラムに参加し、海洋スポーツの指導法を習得すると共に、海洋スポーツ活動を企画・運営する能力を養う。 ○海洋スポーツ（カヌー・ボート・その他パドルスポーツ、スキndaイビング等）に関する先行研究を検討し、研究計画を立て、情報やデータを収集・分析できる能力を養う。 ○卒業論文を作成する。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
		(課題解決力、科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養)	授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・海洋スポーツの文化的背景や発展の歴史を理解する。 ・安全管理を理する。 ・先行研究の内容と課題を説明し、新たな解決方法を考察する。	○			○			40
		■情意的領域	・海洋スポーツを取り巻く自然環境、社会環境、先行研究等に興味を持ち、主体的、継続的に課題解決に取り組む。	○						20
■技能的領域	・安全に海洋スポーツの指導ができる。 ・文献検索ができる。 ・収集した情報や研究成果を海洋スポーツのコーチングに利用できるように工夫する。	○						40		
成績評価の基準	海洋スポーツ活動における指導補助としての指導スキル、授業内での課題発表、卒業研究への取り組み状況の各得点を合計し、60点以上の者を合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料および図書を提供する。また、ウォータースポーツ文献情報データベース（http://wsdb.nifs-k.ac.jp/）を参照する。									
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（海洋スポーツ）または関連実践（海洋スポーツ）を受講していることが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)		授業内で発表やレポート提出を求める、そのために時間外での事前準備および事前学習が必要となることがある、海洋センターの地域貢献事業に協力し補助指導員として貢献する場合がある、やる気と体力に自信があり、日本の海洋スポーツの振興に貢献にしたいという熱意を望みます。					
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡して下さい。 natsumi@nifs-k.ac.jp または海洋スポーツセンター（0994-47-2758）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	中村 夏実	ゼミナールⅠ（2年次）1回～30回 ①海洋スポーツに関する社会学的研究、指導法に関する研究、競技力向上に関する研究など、学術雑誌および啓発書当の関連書籍の検索と検討 ②海洋スポーツ活動指導補助の実践 ③文献検索とデータベースコンテンツ作成 ④海洋スポーツ関連書籍を読む ⑤海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する			下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動					
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1回～30回 ①ウォータースポーツ文献情報データベースのコンテンツ作成 ②海洋スポーツ行事における指導法の習得 ③研究データの収集方法とデータ解析方法（解析ソフトの使い方）の習得 ④海洋スポーツ関連学術論文の抄読 ⑤卒業研究の計画立案のための論文購読およびデータ収集方法の実習 ⑥海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する			下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動					
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1回～30回 ①卒業研究の計画と実行 ②必要に応じた実験および調査とデータの処理（統計処理） ③海洋スポーツ行事の企画と運営 ④卒業研究関連の文献を読む ⑤卒業研究（論文の作成とプレゼンテーション） ⑥海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する			下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助					

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	高橋 仁大					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	本ゼミナールでは、体育学の知識を用いて試合（ゲーム）や映像を分析する能力を身につけるとともに、卒業研究に向けて主体的、計画的および継続的に課題に取り組む意思を身につける。さらにそれらを通じて、ゲームパフォーマンス分析や映像分析の実践的かつ創造的なリーダーとしての資質を身につける科目である。具体的には、ディスカッションやグループ学習により試合（ゲーム）の分析方法や実践での活用方法、分析結果などスポーツ戦術・ゲームパフォーマンス分析に関する理解を深めるとともに、スポーツ指導における映像の活用方法やその効果についての理解を深める。これらを基に卒業研究を行い、スポーツにおける分析や映像の活用についてのスキルを獲得する。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	ゲームパフォーマンス分析の方法を理解する スポーツ指導における映像の活用法と効果について理解する				○			30
		■情意的領域	ゲームパフォーマンス分析を実践に活用する スポーツ指導に映像を活用する	○			○			20
■技能的領域	ゲームパフォーマンス分析・映像分析ソフトのスキルを獲得する 研究をまとめることができる 研究成果を分かりやすくプレゼンテーションできる				○		○ (卒業研究)	50		
成績評価の基準	授業期間における課題への取組状況と発表内容、卒業研究への取組状況の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする									
テキスト、教材 参 考 書	「スポーツの戦術入門」（ヤーン・ケルン著（朝岡、水上、中川監訳）、大修館、1998） 「THE ESSENTIALS OF PERFORMANCE ANALYSIS」（M. Hughes and I. M. Franks, Routledge, 2008） 「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」（福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版、2018） 他、配布資料等									
履修条件・ 関連科目	情報処理A・B・C、スポーツ戦術実践論、バイオメカニクス、スポーツパフォーマンス研究論		備考(教員メッセージ含む)		本ゼミナール内での連絡に大学のメールを活用するので、メール操作等に習熟しておくこと。コンピュータの基本操作についても習熟しておくことが望ましい。					
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	高橋 仁大	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実習を体験し、ソフトウェアや機器に関する情報を得る。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する情報を得る。				課題発表のための予習（1時間） 各種セミナー等への参加（2時間）				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析に関するこれまでの研究について概観するとともに、自身の卒業研究テーマについてディスカッションを行う。 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実習を行い、ソフトウェアや機器に関する理解を深める。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する理解を深める。				課題発表のための予習（1時間） 各種セミナー等への参加（2時間）				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・ゼミナールⅡで検討した卒業研究テーマを基に、卒業研究の作成を行う。 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実践を主体的に行い、ソフトウェアや機器に関するスキルを獲得する。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する理解を深め、実践場面への活用方法を探る。				卒業研究の作成（30時間） 各種セミナー等への参加（2時間）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	竹中 健太郎				補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	7名			
授業の概要	剣道の歴史、日本剣道形、審判法、指導法について実践的、主体的な課題研究を検討・論議する。また、本ゼミナール活動は、実技と理論の両面から積極的に取り組んでいくことにより、実技面での課題を浮き彫りにし、それらの解決策を模索することで、結果として自己教育能力を高め、武道領域における剣道を学問として捉え、専門的な能力を育成することを目指している。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	伝統文化性、競技性のそれぞれにおいて剣道の特性を深く理解し、他者に発信できる。	○		○	○			30	
■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に問題を発見し、その解決に努める態度が身についている。	○		○	○			30	
■技能的領域	自らの剣道実践における課題を設定し、追求することができる。	○		○	○			40	
成績評価の基準	理論と実技の両面での総合評価。								
テキスト、教材 参 考 書	提供する資料：宮本武蔵「五輪書」、全日本剣道連盟「剣道講習会資料」等 購入すべきテキスト：「剣道」（高野佐三郎著、島津書房、1915、@5,800） 購入するのが望ましいテキスト：実践研究の考え方と論文の書き方（福永哲夫・山本正嘉編、市村出版、2018、@3,000）								
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する全科目			備考(教員メッセージ含む)		剣道実技を通して浮き彫りになった問題点を整理するゼミナールである。様々な職域において剣道指導者を志す者を受け入れる。			
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00～16：30、武道館2F 剣道教員室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	竹中 健太郎	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 剣道の歴史的研究 現代剣道に関するの問題点の整理と討論 日本剣道形の研究 指導法及び技術論に関する事例研究				レポートを作成			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 五輪書購読・討論 日本剣道形の研究 指導法及び技術論に関する事例研究と検討 剣道の先行研究についての討論及び課題追求				レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 日本剣道形の研究 指導法及び技術論に関する事例研究の検討 剣道に関するトピックスの整理と自己修行観の総括 卒業研究に向けての取組				レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))							
担当教員名	三浦 健				補助担当者名		前村 かおり							
単位数	4 単位		履修年次	－		受け入れ人数		－						
授業の概要	本ゼミナールは、自身が実践しているスポーツに関し、競技力向上（技術・戦術・運営等）のために①工夫して取り組んだこと②課題を設定して取り組むことのいずれかについて詳細に分かりやすく論じ、取り組んだ成果を評価・診断することにより、研究論文としてまとめる能力を身に付ける科目です。													
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法										
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 ％					
			授業	テスト	レポート	発表								
			■認知的領域	・実践研究に関する論文の抄読を実施し、論文のまとめ方の概略を理解する。	○						○			30
			■情意的領域	・授業に主体的に参加し、積極的に取り組む。 ・研究課題を見つけ、探求する。	○									20
■技能的領域	・論理的にまとめることができる。 ・適切なプレゼンテーションができる。 ・適切な一般的なデータや画像データ（映像等）を活用して評価・診断ができる。	○				○			50					
成績評価の基準	授業の到達目標を基に総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。													
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介する。													
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)		発表の際、ゼミナール構成員が積極的にディスカッションを行うことで、各自の研究課題が明確化するよう取り組んで欲しい。また、各々の測定、実験等には全員で協力して作業をして欲しい。								
オフィス・アワー	随時：総合体育館教員室													
授業計画														
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
1	三浦 健	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 自身が当該スポーツを実践するに当たり、競技力を向上する上で興味のある課題を見つけるために、発表や論文抄読等に積極的に参加する。				発表がある際には、事前準備を行う。								
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 自身が当該スポーツを実践するに当たり、競技力を向上する上で興味のある課題を見つけるために、発表や論文抄読等を担当する。他のゼミ生が担当する際には積極的にディスカッションに参加する。				発表がある際には、事前準備を行う。								
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 研究課題に関する発表や先行研究論文の抄読等を担当する。他のゼミ生が担当する際には積極的にディスカッションに参加し、課題についての明確化への助言をする。				発表がある際には、事前準備を行う。測定、実験、分析等を実施し、論文としてまとめる。卒業研究のプレゼンテーションの準備を行う。								

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	萬久 博敏					補助担当者名		成田 健造		
単位数	4 単位		履修年次	2～4年次		受け入れ人数		7		
授業の概要	競泳の競技力向上を中心としたスポーツ生理学、心理学、力学やコーチング理論など幅広い科学分野の知識と指導能力、コーチングテクニックを身につけ、実際の現場における競技者、指導者としての資質向上を図る。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (科学的支援力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	水泳の特性を理解し、水泳指導、競技力向上に必要な知識を身につける。	○		○	○			40
		■情意的領域	水泳全般に関心を持ち、ゼミや各種測定へ意欲的に参加する。	○						30
	■技能的領域	水泳指導技術、コーチングテクニックを習得する。	○						30	
成績評価の基準	到達目標を基に総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料の配布、テキストの紹介をする。									
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（水泳）を受講していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		特になし。				
オフィス・アワー	随時：実験プール教官控室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	萬久 博敏	ゼミナールⅠ（2年）1～30回 水泳について幅広く学習するとともに、関心のあるテーマについて資料収集を行い発表やディスカッションを実施する。				レポート作成・授業内容の復習				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 水泳に係る文献を検索し、抄読会を実施する。また、興味のあるテーマの資料・情報収集を通して、卒業研究のテーマを決定する。				資料収集及びプレゼンテーション資料作成、発表準備				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 卒業研究論文作成に向けての資料収集・実験（調査）・プレゼンテーションの方法について学習を進める。				卒業研究論文の作成				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	松村 勲					補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次		受け入れ人数	－	
授業の概要	本ゼミナールは、陸上競技中長距離走のトレーニングやコーチングに関しての見識を深めるとともに、新たな発想（トレーニング法やコーチング法）を開拓するものである。具体的には、理論と実践を結びつける為、過去や現在のトレーニングと理論（先行研究など）を比較検討するなどし、過去や現在のトレーニング（取り組み）の課題点を導き出す（課題解決力）ほか、理論から導き出せる新たなトレーニング法を探索し、陸上競技中長距離走についての知識（科学的表現力含む）と発想を教授する。これにより、陸上競技中長距離走の指導に関しての深い知識と応用力が身に付くことが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D P で 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	陸上競技中長距離走のトレーニング方法（理論）について理解する。 各トレーニング方法の効果を説明し、解決法を提案できる。	○		○	○			50	
■情意的領域	文献（先行研究など）探しや発表などを行い、主体的に作業課題に取り組む。 陸上競技中長距離走に興味・関心を持つ。	○			○			30	
■技能的領域	実際にトレーニングを鑑みることができるようになる（分析、反省力）。 また、新たなトレーニング法（解決法や測定法含む）を考えることができるようになる（発想力）。	○						20	
成績評価の基準	授業期間中における演習への参加と取り組み態度、レポート（発表含む）内容の得点を合計し、60点以上の者を合格とする。								
テキスト、教材 参 考 書	適宜必要な資料を配布する（各自準備してもらう）。 その他、参考書として次のものを推薦する。「持久力の科学」（石河利寛 竹宮隆編、杏林書院、1997、@8,000円）、「長距離走者の生理科学」（平木場浩二 編、杏林書院、2004、@2,520円）								
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習(陸上競技)ならびに競技スポーツ理論（陸上競技）を履修しておくことが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		いろいろな経験や知識、新たな発想を得る為、積極的な討論を期待する。			
オフィス・アワー	随時 研究棟3階 310教員室 ※事前にメールでアポをとること								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	松村 勲	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 陸上競技中長距離走に関する資料を収集し、過去や現在行っているトレーニングの効果や有効性などを分析し、理解する。そして、それらをまとめパワーポイント等で発表を行う。その発表をゼミナール内で討論しながら、さらに見識を深めていく。				過去や現在のトレーニング等について整理し、課題や疑問点等を洗い出す（15時間）。			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 陸上競技中長距離走に関する資料を収集し、過去や現在行っているトレーニングの効果や有効性などを分析し、理解する。そして、それらをまとめパワーポイント等で発表を行う。その発表をゼミナール内で討論しながら、さらに見識を深めていく。				過去や現在のトレーニング等について整理し、課題や疑問点等を洗い出す（30時間）。			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 培った見識を活用し、トレーニング分析の実施や新たなトレーニング法（解決方法や分析方法、測定方法含む）の発想をもとに、卒業研究論文およびその発表を仕上げていく。				文献研究（先行研究等）を積極的に実施する（60時間）。			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	永原 隆					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2 3 4		受け入れ人数		5		
授業の概要	本授業では、研究に必要な実験・分析方法や論理的思考について学び、先行研究の体系化によって自ら課題を設定し、それを解決することを通して、研究を実践する能力を身に付ける。また、学術研究の知見や課題の解決を通して、効果的な競技力の向上法について指導できる能力を身に付ける。陸上競技スプリント走を研究対象とする場合が多いが、研究対象種目は問わない。また、研究手法も各自の課題に対応したものを用いる。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
		(課題解決力、科学的支援力、科学的表現力 ，専門的な知識・教養)	授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	対象とする運動の特性を理解し、スポーツの実践や研究に必要な知識を身に付ける。	○		○	○			40
		■情意的領域	対象とするスポーツ運動の理解、研究に関する議論、論文の作成に積極的に取り組む。	○			○			20
		■技能的領域	研究で用いる機器やソフトウェアを適切に用いることができる。			○	○			40
成績評価の基準	対象とする運動への理解度、測定・分析手法の習熟度、課題の達成度によって評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて紹介、提供する。									
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学、体力学、バイオメカニクス、運動生理学、解剖学など		備考(教員メッセージ含む)		高い志のある者が対象です。					
オフィス・アワー	随時 大学院棟3階 教員室1									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	永原 隆	ゼミナールⅠ（2年）1～30回 ・研究テーマに必要な測定機器の操作について学ぶ。 ・研究テーマに必要な分析手法について学ぶ。 ・研究テーマに関する文献の要約を発表する。 ・簡易的な測定のデータをまとめ、発表する。				研究テーマに関する文献の要約、測定データの整理・分析、研究内容の発表準備（60分）。				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 ・研究テーマに必要な測定機器の操作について身に付ける。 ・研究テーマに必要な分析手法について身に付ける。 ・研究テーマに関する複数の文献について要約を発表する。 ・テーマを設定し、研究内容を発表する。				研究テーマに関する文献の要約、測定データの整理・分析、研究内容の発表準備（60分）。				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 ・研究テーマに必要な分析手法について身に付ける。 ・研究テーマに関する卒業研究論文を執筆する。 ・研究テーマに関するプレゼンテーションを行う。				研究テーマに関する文献の要約、測定データの整理・分析、研究論文の作成、プレゼンテーションの準備（90分）。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	塩川 勝行					補助担当者名		青 木 竜		
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	サッカー競技に関する文献、資料を収集し、多角的な視点からサッカーについて理解を深め、実際のトレーニングやコーチングに役立てる。また自ら映像の分析・編集を行い、競技者及び指導者としての資質の向上を図り、卒業研究に生かす。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	サッカー競技に関する文献、資料を収集し、多角的にサッカーに関する理解を深める。	○		○				50
		■情意的領域	積極的に授業・ディスカッションに参加する	○						50
□技能的領域										
成績評価の基準	授業への出席が2/3 以上という条件で、授業への取り組み及び課題の提出、発表の各合計点が60 点以上のものを合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書	特になし。									
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)		特になし。					
オフィス・アワー	金曜日 9時～12時 8階810 研究室（事前にアポイントを取ること）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	塩川 勝行	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 サッカーに関する国内外の自分が興味を持つ文献や資料、映像の収集を行う。また、各分析や資料収集に必要なゲーム分析の方法を習得する。				適時指示する				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 サッカーに関する国内外の自分が興味を持つ文献や資料、映像の収集を行い、研究テーマの概略を決定する。また、サッカーにおける映像の分析、編集を行い、現場に役立つ情報のフィードバック方法について検討を行って行く。 ユース年代のトレーニング方法・コーチング方法についても、指導の実践を行いながら討論を行う。				適時指示する				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 各自の研究テーマを確定するとともに、より深く追求し、卒業論文の作成に取りかかる。論文作成方法やプレゼンテーション方法を学び、その成果を定期的に発表し、討論して行く。 また、ユース年代のトレーニング方法・コーチング方法についても、指導の実践を行いながら討論を行う。				適時指示する				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))						
担当教員名	榮樂 洋光					補助担当者名		笹子 悠歩						
単位数	4 単位		履修年次	2～4年次		受け入れ人数		各7名						
授業の概要	本ゼミナールは、海洋スポーツの実践・研究活動を行うために必要となる知識や技術の習得、指導方法を学ぶ科目である。学びを通して、海洋スポーツ活動に主体的、計画的に取り組むことができ、対象者のニーズに合わせた実践指導ができる能力を身につけていく。また、理論に関する知識を深め、高い実践力を育成していくことを目指す。													
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法										
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %					
			授業	テスト	レポート	発表								
			■認知的領域	海洋スポーツの特性を理解し、他者に発信することができる	○						○			40
			■情意的領域	海洋スポーツに関心を持ち、主体的、計画的な取り組みができる。	○									20
■技能的領域	・安全な海洋スポーツの指導ができる ・先行研究等の資料まとめができる ・海洋スポーツ指導に活用できる資料作成ができる	○							40					
成績評価の基準	授業における課題への取り組み状況と発表内容および卒業研究へ向けた取り組み状況の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。													
テキスト、教材 参 考 書	適宜必要な資料を配付する													
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ-海洋スポーツ-を履修しておくことが望ましい			備考(教員メッセージ含む)		特になし。								
オフィス・アワー	随時 研究棟7階709教員研究室または海洋スポーツセンター（47-2758）													
授業計画														
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
1	榮樂 洋光	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 海洋スポーツに関する文献・資料収集および抄読を行う 収集資料から得られた分析方法や研究方法について学ぶ				事前準備について適宜指示する								
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 海洋スポーツ種目の中から興味ある分野を限定した文献・資料収集および抄読を行う 卒業研究へつながる予備調査を行い、分析、発表を行う				事前準備について適宜指示する								
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究テーマに沿った文献・資料収集、実験（調査）を行う 論文作成に向けた学習を行う（文書作成、データ処理、プレゼンテーション方法）				事前準備について適宜指示する								

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	下川 美佳				補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2～4		受け入れ人数 7			
授業の概要	本授業では体育学の知識を活用し、武道(剣道)の実技や理論に関する課題を浮き彫りにして、その解決策を模索し、それらを他者に説明する能力と、主体的、計画的、継続的に課題に取り組む意思の獲得を目指す。また、実技と理論の両面から積極的に取り組むことにより、自己教育能力を高め、総合領域としての武道(剣道)学としての能力を身につけることを期待している。具体的な活動としては、武道に関する文献資料を用いて、特に剣道の歴史、原理、指導方法に関する見識を深め、それらの知識を応用して、実践的な課題について検討・議論する。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (課題解決力、科学的表現力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	剣道の伝統文化性、競技性、運動性、精神性に関する基礎的な事項を説明できる。	○		○	○			30	
■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に問題を発見し、その解決に努める態度が身についている。	○		○	○			40	
■技能的領域	・ITおよび図書館での文献検索ができる。 ・設定された時間内でプレゼンテーションができる。 ・自らの剣道実践における課題を設定し、追求することができる。	○		○	○			30	
成績評価の基準	課題への取り組み状況や発表の内容および実技の技倆などの習熟度を評価する。								
テキスト、教材 参 考 書	提供する資料:「剣道講習会資料(全日本剣道連盟)」等 購入するのが望ましいテキスト:「体育・スポーツにおける実践研究の考え方と論文の書き方(福永哲夫・山本正嘉編, 市村出版, 2018.@3,000)」								
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する教科		備考(教員メッセージ含む)	レポートの提出やパワーポイント発表を頻繁に行う。そのために授業時間外での事前準備および、事前学習が必要である。 武道(剣道)実技に関連する課題を論理的に捉え、その知識を実践で活用することを目指す者を受け付ける。					
オフィス・アワー	水曜日:9:00~16:00(研究棟 5F 505教員研究室) ただし、事前に連絡をすること。 shimo@nifs-kac.jpまたは 0994-46-4953(505教員研究室)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	下川 美佳	ゼミナールⅠ(2年次)1~30回 ・ 武道(剣道)に関連する学術雑誌および啓発書等の検索と検討(歴史的研究、指導法や技術論に関する研究など) ・ 現代剣道に関する問題点の整理と検討 ・ プレゼンテーションの方法			武道(剣道)に関連する文献を収集・整理し、現代剣道に関する問題点を検討して、それらのプレゼンテーション資料を作成する。				
2	〃	ゼミナールⅡ(3年次)1~30回 ・ 日本剣道形の研究 ・ 指導法および技術論に関する事例研究 ・ 卒業研究の企画立案のための論文輪読(剣道の先行研究を用いた課題追求と方法の検討) ・ 卒業研究のテーマの絞り込みと予備実験(調査)の企画・実施			授業課題や研究テーマに関する文献の収集・整理、予備実験(調査)の企画立案、実験(調査)準備、実験(調査)、データ分析・解析し、それらのプレゼンテーション資料を作成する。				
3	〃	ゼミナールⅢ(4年次)1~30回 ・ 卒業研究テーマについての本実験(調査)の企画案のプレゼンテーションと討論 ・ 実験(調査)結果のプレゼンテーションと討論 ・ 卒業研究の中間発表と、本発表に向けてのプレゼンテーション ・ 自己修行観の総括			卒業研究作成のための本実験(調査)の企画案の作成、実験(調査)準備、実験(調査)、データ分析・解析、文献の収集・整理をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))					
担当教員名	村上 俊祐					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	2～4 年次		受け入れ人数		－					
授業の概要	テニスやコーチングに関する幅広い知識を持ったエビデンスベースの指導を実践できる能力を養う。本ゼミナールでは、体育・スポーツ科学の知識を用いて、テニスのゲームパフォーマンスや技術を分析する能力を身につける。また、撮影した映像や取得したデータなどを活用したコーチングを実践できる指導者としての資質を身につける。												
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (課題解決力、科学的表現力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	・テニスの競技特性を理解し、ゲームパフォーマンスや技術に関する事項を説明できる。 ・コーチングに関する基礎的な理論を理解し、説明することができる。							○			30
		■情意的領域	・テニスのゲームパフォーマンスや技術の分析、コーチングの理論および実践に興味・関心を持ち、積極的かつ主体的に探求しようとする。	○							○		20
■技能的領域	・映像分析ソフトや機器等を用いて、ゲームパフォーマンスや技術を適切に評価できる。 ・収集した情報や研究成果について、わかりやすくプレゼンテーションできる。					○		50					
成績評価の基準	授業期間における課題への取組状況と発表内容、卒業研究への取組状況の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。												
テキスト、教材 参 考 書	授業時に資料等を配布する。参考図書は、以下の通りである。 「テニス指導教本Ⅰ」（公益財団法人日本テニス協会編、大修館書店、2015） 「球技のコーチング学」（日本コーチング学会編著、大修館書店、2019） 「スポーツパフォーマンス分析入門―基礎となる理論と技法を学ぶ―」（ピーター・オドノヒュー著、中川昭監訳、橘肇／長谷川悦示訳、大修館書店、2020） 「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」（福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版、2018）												
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学概論、コーチ学概論、スポーツ戦術実践論、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ（テニス）を履修しておくことが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		何事にも関心を持ち、ゲームパフォーマンス分析や指導実践の継続、各種測定への積極的な参加により、自身でより良い「学び」の場を作り上げていくことを望む。							
オフィス・アワー	随時 研究棟8階 806教員研究室												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	村上 俊祐	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析を体験する。 ・テニスの技術評価のための各種機器を用いた測定を体験する。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する情報を得る。					課題発表のための予習 各種セミナー・講習会への参加						
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する先行研究について、プレゼンテーションやディスカッションを通して概観し、卒業研究のテーマを検討する。 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析を実践し、機器の操作、戦術の評価に関する理解を深める。 ・テニスの技術評価のための各種機器を用いた測定を実施し、技術の評価に関する理解を深める。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する理解を深める。					課題発表のための予習 各種セミナー・講習会への参加						
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・ゼミナールⅡで検討した卒業研究テーマを基に、プレゼンテーションやディスカッションを重ね、卒業研究の作成に繋げる。 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析やテニスの技術評価のための各種測定を主体的に行い、そのスキルを磨く。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する理解を深め、実践場面で活用する。					卒業研究の作成 各種セミナー・講習会への参加						

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	坂中 美郷					補助担当者名			
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	7		
授業の概要	バレーボールにおけるコーチングに関する文献を検索・抄読を行い、戦術及び技術的ゲーム分析・バイオメカニクスの分析・心理学的分析から競技力向上に関するコーチングに結びつける。また、実践的なコーチングテクニックを身に付けるために、調査・実験から現場で活用できるコーチングを探究する。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (コミュニケーション力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	先行研究（文献）の抄読から、コーチングを多面から分析する能力を養う。	○		○				40	
■情意的領域	（ゼミナールⅠ）学会誌や専門書を探索する。 （ゼミナールⅡ・Ⅲ）各実験の補助等を行い自身の研究課題を探究する。	○						30	
■技能的領域	知識をもとに、コーチングが出来るようになる。	○		○				30	
成績評価の基準	授業への取り組みは、先行研究の抄録作成及び理解度を授業ごとに行う。 レポート等の提出状況は、年度末に論文形式1編でまとめとして作成し提出する。								
テキスト、教材 参 考 書	随時配付する。								
履修条件・ 関連科目	(ゼミナールⅠ) 競技スポーツ論・実習Ⅰ (ゼミナールⅡ) 競技スポーツ論・実習Ⅰ、競技スポーツ論・実習Ⅱの履修が望ましい (ゼミナールⅢ) 競技スポーツ論・実習Ⅰ、競技スポーツ論・実習Ⅱ、競技スポーツ論・実習Ⅲ		備考(教員メッセージ含む)		随時相談を受け付けます。				
オフィス・アワー	随時 601教員室、球技体育館準備室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	坂中 美郷	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 各実験や調査に不可欠な統計の基礎知識を理解する。また、国内外におけるバレーボール関連の文献検索を行い、抄読会を行う。				ゲーム分析ソフトの使用法の習得（授業毎1時間） グラフ及び表の作成法の習得（授業毎1時間） 映像編集ソフトの使用法の習得（授業毎1時間）			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 卒業研究のテーマを定めるため、選手及び指導者から見て解明したいテーマを決める。研究テーマに沿って先行研究の収集と理解から、予備実験（調査）を行い結果及び考察を行い次年度の卒業研究へつなげる。				研究テーマの選定を行うため先行研究の資料収集（授業毎1時間）			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 研究テーマに沿って、より深く、より鮮明にするため、実験（調査）を行い、卒業研究を完成させる。またプレゼンテーション能力の向上も行う。				実験（調査）データの解析と考察（授業毎2時間）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)			授業形態	演習		授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	小森 大輔						補助担当者名		
単位数	4 単位			履修年次	2		受け入れ人数	7名	
授業の概要	本ゼミナールは、陸上競技のパフォーマンスを向上させるためのトレーニング法について自らの実践を通して行う。パフォーマンスを適切に評価するために、「バイオメカニクスの分析」、あるいは「パフォーマンス分析」が行える研究スキルの習得を目指す。体力、トレーニング方法、コーチングに関する見識を深めるために、文献の検索・抄読を行う。これらにより、問題解決能力、コミュニケーション能力、競技者としての能力の向上が期待される								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標				成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
			○			○			
			○						
■認知的領域	・体力、トレーニング法、コーチングに関する基礎的な事項を説明できる。 ・発表内容をもとに課題の設定と解決方法などが提案できる。	○				○			40
■情意的領域	・授業に興味・関心を持って参加し、意欲的に課題に取り組もうとする。 ・授業の意義を理解し、内容を積極的かつ協力して探求しようとする。	○							20
■技能的領域	・適切なプレゼンテーションができる。 ・映像分析(動画編集、連続写真作成)ができる。 ・ITおよび図書館での文献検索ができる。	○				○			40
成績評価の基準	3つの授業達成目標をもとに、授業や発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。								
テキスト、教材 参 考 書	授業の中で適宜紹介する。								
履修条件・ 関連科目	運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学概論、運動学概論、コーチ学概論、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ(陸上競技)を履修しておくことが望ましい。				備考(教員メッセージ含む)		何事にも積極的に取り組む姿勢を求む。		
オフィス・アワー	随時 研究棟8階 805教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	小森 大輔	ゼミナールⅠ ・これまでのコーチングを振り返る ・これまでの競技歴(発育・発達を含む)を振り返る ・トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて、分析・考察を加えて、自分の考えを発表する					発表者が課題を見つけ、発表および討論に備えて予習を行う。		
2	〃	・これまでのコーチングを振り返る ・これまでの競技歴(発育・発達を含む)を振り返る ・トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて、分析・考察を加えて、自分の考えを発表する ・バイオメカニクスの測定・分析方法の理解とデータ収集・分析 ・文献研究の行い方とまとめ方					授業課題や研究テーマに関する文献の収集・整理、予備実験などの実施、データ収集および分析をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。		
3	〃	ゼミナールⅢ ・卒業研究テーマの決定、論文作成に向けての資料収集およびまとめる ・卒業研究の中間発表、本発表に向けてのプレゼンテーション練習					卒業研究作成に関する作業を行う。		

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2100)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	山下 龍一郎					補助担当者名		中谷 太希		
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	体操競技の歴史、技術論、方法論について概説し、それらの深い知識と高度な技を習得するためのトレーニング法、指導法を学習し、高い能力を持った競技者、指導者としての資質の向上を図る。また、これらを生かして卒業論文の作成を行う。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・スポーツ運動学におけるコツやカンといった身体知の基礎概念について理解する。	○	○					80
		■情意的領域	・プレゼンテーションや質疑応答、グループワーク等に積極的に参加し、自分なりの考えや解釈を論理的に伝えられるようになる。	○						20
□技能的領域										
成績評価の基準										
テキスト、教材 参 考 書	金子明友著「体操競技のコーチング」(大修館書店)、K・マイネル著金子明友訳「スポーツ運動学」(大修館書店) その他必要に応じて資料を提供する。									
履修条件・ 関連科目	体操競技に精通していることが好ましい。			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	随時：801教員研究室(内線4969)									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	山下 龍一郎	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 体操競技の技術研究、コーチング、指導方法を習得するための基礎として、次の項目についての考究を行う。 技の表記 : 構造、規定詞、運動表記 器械の種目特性 : 床、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒、 								

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	成田 健造					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	－		受け入れ人数		－		
授業の概要	水泳について、多角的な視点（力学、生理学、コーチング学など）からアプローチする。本ゼミナールでは、水泳における専門知識や測定機器の使用方法を学ぶとともに、各自が興味を持った課題に深く取り組むことを通して、課題解決力を高める。さらに、その課題解決の過程で生じた事実や気づきを、的確な言葉と文章を用いて相手に伝えることを通して、科学表現力を高める。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (課題解決力、科学表現力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	水泳に関する知識を網羅的に有すること。また、測定機器の使用および活用方法を理解すること。	○		○	○			30
		■情意的領域	水泳に興味・関心を持ち、自ら学習する意欲があること。 また、自身で考え、意見を持ち、積極的に議論に参加すること。	○		○	○			40
		■技能的領域	測定機器を用い、データ分析ができること。 論理的な文章を、適切な単語・言葉を用いて作文ができること。 聴衆を考慮したプレゼンテーションができること。	○		○	○			30
成績評価の基準	出席は最低条件とし、議論への参加の積極性、レポートや発表内容などを総合的に判断する。									
テキスト、教材 参 考 書	適宜、紹介する。									
履修条件・ 関連科目	特になし。			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	随時対応。研究棟8階 812教員研究室 ※事前にメール等で連絡ください。（kenzo@nifs-k.ac.jp）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	成田 健造	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 文献を読み、水泳に関する基礎的な知識を修得する。また、他の人の水泳実験に補助者としても参加し、体験する。 ゼミ活動ではディスカッションを通して、水泳の面白さ、奥深さに触れつつ、自身の興味を見つめる。				文献調査、実験の補助				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 前期は、論理的な文章作成の基礎を学びつつ、水泳に関する先行研究を読み、科学的論文の読み方や書き方を学ぶ。また、グループで実験を実践し、水泳実験の難しさや面白さを体験しつつ、留意点について理解する。 後期は、水泳研究の様々な視点でのアプローチ方法を学びつつ、卒業研究のテーマ設定に向けて、自身が興味ある分野を選定する。また、自身の興味に近い論文を読んで知識を深めるとともに、その内容についてディスカッションする。				文献調査、実験の準備、発表資料の準備				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究のテーマを決定し、自主的に進める。実験系であれば、実験計画書を作成し、そのスケジューリング含め、主体的に実験を行う。その際、予備実験での反省を踏まえ、本実験での測定方法を選択し、実施する。実践系であれば、蓄積するデータを吟味し、その進捗について定期的に振り返りを行う。 卒業論文の作成では、適切な言葉の選定と、論理的な文章の作成に励む。また、相手に対してわかりやすく伝えられるよう工夫する。				文献調査、実験の準備、発表資料の準備				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	藤井 雅文					補助担当者名			
単位数	4 単位		履修年次	2 年次		受け入れ人数		7 名程度	
授業の概要	野球の歴史やしくみ、取り巻く環境や練習法などについて概説し、それらの深い知識を活かして強いチームや魅力的なチームを作り上げる指導法やリーダーシップを学習し、高い能力を持った競技者、指導者としての資質能力の向上を図る。さらに、実践現場で競技に関わることで技術・戦術・マネジメント等に関する各々の問題点を浮き彫りにし、卒業研究に繋げる。また、卒業研究に向けて先行研究を調べ、発表・討論し、新たな研究課題や問題を発見する中で、問題解決能力や科学的表現力、コミュニケーション能力が高まることを期待する。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (コミュニケーション能力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	・先行研究の抄読から、指導について多面的に分析する能力を養う。 ・野球に関することについて理解し、他者に分かりやすく発信することができる。	○		○	○			40	
■情意的領域	・先行研究の抄読から、指導について多面的に分析する能力を養う。 ・野球に関することについて理解し、他者に分かりやすく発信することができる。	○		○	○			30	
■技能的領域	・論理的に内容をまとめて、適切なプレゼンテーションで発信することができる。 ・知識をもとにポイントを押さえた安全で適切な指導ができる。	○		○	○			30	
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み及び課題の提出、発表の各合計点が60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参 考 書	授業の中で随時紹介する。								
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（野球）を履修しておくことが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)		特になし				
オフィス・アワー	随時 研究棟8階804教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	藤井 雅文	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 野球に関する情報（文献、資料、映像等）の収集、抄読を行い、情報の基本的な分析方法を学習する。また収集した情報から基本的な研究方法について学習する。				事前準備について適宜指示する			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 実践現場で抱く疑問や関心などから興味のある分野を中心に資料収集を行い、分析、考察を加えて自分の考えをまとめて発表する。その過程を通じて、卒業研究で解明したいテーマの概略を決定する。				事前準備について適宜指示する			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ゼミナールⅡで検討した研究テーマに沿った文献、資料収集、実験（調査）を行い、卒業研究論文を完成させる。また、プレゼンテーションの作成方法や発表方法について学習し、自身の研究について他者に分かりやすく発表する。				事前準備について適宜指示する			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール (卒業研究))				
担当教員名	山口 大貴				補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	-				
授業の概要	本授業では、自転車競技を柱として、競技力向上に関する実践的知見の創出を目指している。そのために、測定・実験を通じて、研究能力の修得を目指す。卒業論文では、受講生の興味関心があるテーマを設定し、研究課題に主体的・計画的に取り組む能力を身につける。その他、自らが作成した資料を基に、プレゼンテーションおよびディスカッションする能力を身につける。これにより、課題解決力および科学的表現力、コミュニケーション能力を身につけることが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (課題解決力、科学的表現力)	授業期間			定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート				発表	
		■認知的領域	・専門競技に関することについて基礎的な事項を他者に分かりやすく説明することができる。	○			○			40
		■情意的領域	・授業に興味・関心を持って積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○			○			20
■技能的領域	・パワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。 ・映像分析 (連続写真作成、動画編集) ができる。 ・ITおよび図書館での文献検索ができる。	○			○			40		
成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、発表等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書	随時紹介する。									
履修条件・ 関連科目	運動学概論、コーチ学概論、競技スポーツ論・実習 (自転車競技Ⅰ～Ⅲ)、トレーニング科学概論、運動生理学、バイオメカニクス、を履修しておくことが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)		何事にも積極的に意欲のある学生を歓迎します。 専門は自転車競技ですが、他競技の学生の受け入れについても検討しますので相談ください。					
オフィス・アワー	時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階 803教員研究室 (h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp)。									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	山口 大貴	ゼミナールⅠ (2年生) 1~30回 3・4年生の発表を聴講して学ぶ。ディスカッションに参加して自身の考えを他者に共有する。 興味関心があることについて調べてみる。			ゼミの先輩達の測定・実験を手伝って学ぶ。自身の研究についても立案して実践する。 プレゼンテーションについてはパワーポイントを用いて行う。					
2	〃	ゼミナールⅡ (3年生) 1~30回 4年生の発表を聴講して学ぶ。ディスカッションに参加して自身の考えを他者に共有する。 卒業論文の作成に向けて、自分自身の興味あることについて研究活動をしてみる。			ゼミの仲間の測定・実験を積極的に手伝う。自身の研究についても立案して積極的に実践する。 プレゼンテーションについてはパワーポイントを用いて行う。					
3	〃	ゼミナールⅢ (4年生) 1~30回 前年度の研究を発展させて卒業論文を作成するための方法を学びまとめる。各発表へ向けてプレゼンテーションの練習にも取り組む。			ゼミの仲間の測定・実験を積極的に手伝う。自身の研究についても立案して積極的に実践する。 プレゼンテーションについてはパワーポイントを用いて行う。					

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	堀内 雅弘					補助担当者名			
単位数	4 単位		履修年次	2～4年次		受け入れ人数		—	
授業の概要	本科目では、呼吸・循環・環境適応をキーワードとして、運動生理学の基礎知識と実験手技を学ぶ。さらに、研究を進めるうえでの課題設定、仮説立案、実験による検証から、卒業研究の作成に向けて取り組む。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (科学的視点、専門的知識)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的 領域	生理学を基礎とし、植物機能（呼吸・循環） に関わる知識・課題が理解できる。	○		○	○			30	
■情意的 領域	実験・実習に対して検者や被検者として積極 的に参加する。	○			○			30	
■技能的 領域	卒業論文作成に向け、 1）必要な文献をPubMed等で検索でき、End Note等にデータベース化して、論文作成に活 用することができる 2）実験機器の操作や解析法ができるように なる 3）統計手法を身に着つける	○			○			40	
成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。								
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて和・洋書を適宜紹介する。								
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクス、体育学実験 履修していることが望ましい。			備考(教員メッ セージ含む)					
オフィス・アワー	随時、事前にメールで連絡が望ましい。研究棟3階303研究室 mhoriuchi@nifs-k.ac.jp								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	堀内 雅弘	ゼミナールⅠ（2年）1～30回 ・パソコンの使い方を学び、基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント） 、および文献管理ソフトの操作ができるように練習する。 ・興味あるテーマの論文について抄読、内容をパワーポイントスライドによりプレゼン テーションする。 ・3年生、4年生の実験に参加する。				授業や興味のある課題に関連する文献をPubMed 等で検索し、精読し、文献管理ソフト（EndNote 等）にデータベース化する。			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 ・パソコンソフトによる統計手法を身につける。 ・興味あるテーマの論文について抄読し、内容をプレゼンテーションして、卒業研 究のテーマを決定する。 ・実験機器の使用方法や測定（呼吸ガス、心拍数、筋血流量、筋・末梢酸素飽和度 測定、血圧、皮膚・深部温度、動脈硬化指標等）の原理と技術を実習する。 ・研究の目的や仮説を設定し、実験デザインを作成して、予備実験を実施する。 ・PubMed等で文献を検索して、文献管理ソフトのEndNoteの使用法を学び、参考 文献をデータベース化する。 ・各自の卒業研究テーマについて、「卒業研究計画書」を作成し、発表する。				授業や興味のある課題に関連する文献をPubMed 等で検索し、精読し、EndNote等にデータベー ス化する。			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 ・卒業論文作成のために研究テーマを定め、実験・データ分析を行う。 ・実験で得られた結果を分析し、全体でディスカッションする。 ・卒業論文、研究発表用プレゼンテーション資料を作成する。 ・卒業研究をプレゼンテーションする。				卒業論文作成に取り組む（随時）。			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2100)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))					
担当教員名	田巻 弘之					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	2,3,4年次		受け入れ人数		－					
授業の概要	本科目では、スポーツ、健康づくりにおける基礎的な科学的表現力を身につけるため、合理的な身体活動や運動の効果についての生理学的/組織細胞学的根拠を調べ、実験を通して検証していく。また、文献を検索して文献管理ソフトでデータベース化し、論文作成に活用する方法を身につける。本授業により、スポーツ、体力・健康増進に関して新しい知見を見出すよう議論でき、円滑に卒業論文を完成することができる。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	生体反応や組織細胞をイメージングする原理を理解し、運動効果について生理学的根拠を述べることができる。	○						○			30
		■情意的領域	授業で実施する実験・実習等に積極的に取り組み、チームで協力して課題に挑戦する。	○						○			30
■技能的領域	・特殊な実験機器操作や解析手法など適切な研究手法を習得する。 ・必要な文献をPubMed等で検索でき、EndNote等にデータベース化して、論文作成に活用することができる。	○			○			40					
成績評価の基準	上記3領域に関する習得状況について総合的に評価する。ルーブリックを配布する。												
テキスト、教材 参 考 書	(参考書) 1) 計測法入門―計り方, 計る意味, 内山 靖, 協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, 2)新しい骨形態計測, 遠藤直人監修, ウィネット (2014), ISBN:978-4434190803, 3)細胞・組織染色の達人, 大久保和央(著), 羊土社 (2018), ISBN:978-4758122375, 4)これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版, 酒井聡樹, 共立出版 (2015), ISBN: 978-4320005952, 5)実験で使うとこだけ生物統計1, 池田郁男, 羊土社 (2017), ISBN: 978-4758120760, 6)実験で使うとこだけ生物統計2, 池田郁男, 羊土社 (2017), ISBN: 978-4758120777, 7)EndNote活用ガイド デジタル文献整理術, 讃岐美智義, 克誠堂出版 (2018), ISBN: 978-4-7719-0496-5												
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクス、体育学実験を履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)									
オフィス・アワー	随時(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです) 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	田巻 弘之	ゼミナールⅠ(2年) 1～30回 ・パソコンの使い方を学び、基本的なソフトの操作ができるように練習する。 ・PCを用いる実験機器の使用手法や測定、分析の基本原則と技術を実習する。 ・興味あるテーマの論文について抄読、内容をプレゼンテーションする。 ・リサーチラボノートの記録の仕方を学び、実習する。 ・PubMed等で文献を検索し、文献管理ソフトEndNoteの使用手法を学び、参考文献をデータベース化し、その便利さに感動する。					各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(各2時間)						
2	〃	ゼミナールⅡ(3年) 1～30回 ・パソコンの使い方を学び、基本的なソフトの操作ができるように練習する。 ・興味あるテーマの論文について抄読し、内容をプレゼンテーションして、卒業研究のテーマを決定する。 ・研究テーマに関連する実験機器の使用手法や測定、分析(筋電図、筋力測定、筋酸素飽和度測定、骨強度測定、ビデオ撮影、画像分析、組織染色、顕微鏡観察・撮影等)の基本原則と技術を実習する。 ・計測信号をA/D変換してPCで記録する方法、データ解析ソフトの使用手法を学ぶ。 ・研究の目的や仮説を設定し、スケジュールと実験プロトコルを作成して、実験を実施する。 ・PubMed等で文献を検索して、文献管理ソフトのEndNoteの使用手法を学び、参考文献をデータベース化する。 ・リサーチラボノートの記録の仕方を学び、実習する。 ・各自の卒業研究テーマについて、「卒業研究計画書」を作成し、発表する。					各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(各2時間)						
3	〃	ゼミナールⅢ(4年) 1～30回 ・実験で得られた結果を分析し、全体でディスカッションする。 ・必要な統計方法(ソフト)を学び、自己の卒業研究に用いる。 ・PubMed等で文献を検索して、文献管理ソフトのEndNoteの使用手法を学び、参考文献をデータベース化し、卒業論文の作成に活用する。 ・卒業論文、研究発表用プレゼンテーション資料を作成する。 ・卒業研究をプレゼンテーションする。					各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(各2時間)						

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	中垣内 真樹					補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	2～4年次		受け入れ人数		－			
授業の概要	健康づくりや介護予防のための運動の方法論やその効果について国内外の研究論文を抄読して見識を深める。それらの実践方法や効果についてディスカッションしながら卒業論文のテーマを決定し、卒業論文を遂行できる能力を身につける。										
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	健康づくりや介護予防に関する運動方法について国内外の研究をレビューし、研究手法や新たな研究課題を探索する。	○		○	○			30
			■情意的領域	健康づくりや介護予防の運動の指導、効果判定の測定を通して、研究手法の習得に積極的に取り組む。	○			○			40
	■技能的領域	研究の背景(目的)、方法、考察など論理的にまとめることができ、さらにそれらを伝えるプレゼンテーション能力を身につける。	○			○			30		
成績評価の基準	卒業論文の作成に向けて積極的に取り組むこと、授業への参加状況や発表内容で総合的に評価する。										
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料等を紹介・配布する。 参考書：「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」(公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 2019年, 16800円) ：「運動処方の指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳, 南江堂, 2011年, 3850円)										
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッセージ含む)		健康づくり、介護予防、生涯スポーツに興味があり、地域に出て積極的に指導や研究に取り組むことを望みます。						
オフィス・アワー	随時：研究棟 4階 407研究室										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	中垣内 真樹	ゼミナールⅠ(2年次)1～30回 健康づくり、介護予防の運動指導現場を見学・参加し、運動指導の方法論を学ぶ。				健康づくり、介護予防の運動方法やその効果についての資料を収集する。					
2	〃	ゼミナールⅡ(3年次)1～30回 健康づくり、介護予防の運動方法論やその効果に関する国内外の研究論文をレビューし、今後の研究課題などを討論し、卒業論文のテーマについて検討する。				国内外の研究論文を検索し、それらをレビューし、発表できるようにまとめる。					
3	〃	ゼミナールⅢ(4年次)1～30回 卒業論文の作成する。指導、調査、測定を実施し、得られた結果を分析・考察して、プレゼンテーションできるようにする。				指導、調査、測定の方法および分析(統計解析等)の方法についての情報を収集する。					

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)			授業形態	演習		授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	藤田 英二						補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次		受け入れ人数	7名		
授業の概要	アスレティックトレーニングや高齢者等への健康運動などの、様々な対象に対する運動処方の領域に関する見識を高め、それらについてのアプローチ法や研究法について考究する。これにより、課題解決力、科学的支援力、科学的表現力が身につくことが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	アスレティックトレーニングや高齢者等への健康運動領域に関する先行研究をレビューし、研究手法を学ぶとともに、新たな問題点や研究課題を発見する。	○		○	○			30
		■情意的領域	先行研究の調査、発表、討論、および実験測定への参加など、積極的に課題へと取り組む。	○			○			40
		■技能的領域	実験測定に必要な基本手技を身につけるとともに、論理的思考の養成と、プレゼンテーション能力の向上を図る。				○			30
成績評価の基準	卒業研究作成に向けて積極的に取り組んでいるかどうかを中心に、参加状況などを加味して総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を提供する。									
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)		何事にも積極的に取り組む姿勢を望む。				
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	藤田 英二	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 国内外の関連する文献・先行研究の検索と検討をし、興味の持てる内容に関して報告・発表を行う。					関連領域の知識を学び、研究活動の手伝いを積極的に行う。			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 国内外の関連する文献・先行研究の検索と検討をし、興味の持てる内容に関して新しい課題を見つけ報告・発表を行う。					各種実験機材や測定機器の扱いに慣れるとともに、積極的に実験や測定に参加する。			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業研究に向け、研究を進める為の諸方法について学び、具体的な調査・測定を行う。得られた結果を分析・考察し、その内容を適切にプレゼンテーションできるようにする。					各自の卒論テーマに関連する文献について輪番制でプレゼンテーションを行う。			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	モハモド モニルル イスラム					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2～4		受け入れ人数		7		
授業の概要	健康づくりまたは高齢者の自立維持のために有効な運動のあり方というテーマに関する国内外の論文を抄読し、また測定や調査および実験を行い、身体 の運動の有用性を知り、運動スポーツの意義を検討する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	健康づくりまたは高齢者の自立維持のために必要な運動とその具体的方法についての知識を高め、今日的な課題と今後のあり方を理解できるようになる。	○		○				30
		■情意的領域	積極的に授業に参加し、さまざまなテーマについても興味や関心を持つことができるようになる。意見を述べ、他の学生と共同作業ができるようになる。	○						40
■技能的領域	科学的に思考し、計画、解析、発表ができるための基本的技術を習得する。					○			30	
成績評価の基準	自分の取り込む卒業研究につながるテーマを見つけ、計画、立案、調査研究の実施、展開、まとめといった研究の手順を理解し、それぞれの成果を発表する。この一連の取り組みを総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	随時紹介する。									
履修条件・ 関連科目	公衆衛生学、ヘルスプロモーション、運動生理学などの健康づくりに関わる基本的な事項を理解しておくことが望まれる。			備考(教員メッセージ含む)		積極的に授業に参加し、興味のある課題を立て、研究の手順や方法を学んでもらうとともに研究を通して運動を指導する(運動により支援する)ということの難しさと楽しさを知ってほしい。				
オフィス・アワー	教員研究室509号(内線: 4962)にて随時(但し、事前に申し出ること)									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	モハモド モニルル イスラム	ゼミナールⅠ (2年) 1～30回 国内外の関連する文献や過去に行われてきた研究の検索などをもとに、新しい研究課題をみつけ、研究の立案、計画、準備などをおこない、その展開を図り、成果を報告発表する。				関連知識を学び、研究プロジェクトや学内外の研究のためにおこなう運動指導に積極的に参加し、指導能力を高める。				
2	〃	ゼミナールⅡ (3年) 1～30回 国内外の関連する文献や過去に行われてきた研究の検索などをもとに、新しい研究課題をみつけ、研究の立案、計画、準備などをおこない、その展開を図り、成果を報告発表する。				関連知識を学び、研究プロジェクトや学内外の研究のためにおこなう運動指導に積極的に参加し、指導能力を高める。				
3	〃	ゼミナールⅢ (4年) 1～30回 国内外の関連する文献や過去に行われてきた研究の検索などをもとに、新しい研究課題をみつけ、研究の立案、計画、準備などをおこない、その展開を図り、成果を報告発表する。				関連知識を学び、研究プロジェクトや学内外の研究のためにおこなう運動指導に積極的に参加し、指導能力を高める。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	吉田 剛一郎					補助担当者名			
単位数	4 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数		—	
授業の概要	運動にともなうからだの変化について生化学・栄養学面から学ぶ。糖質・脂質・タンパク質、いわゆる三大栄養素と、生命活動に不可欠なビタミンとミネラルが生体内代謝におよぼす役割について学ぶ。その後、エネルギー産生、疲労、およびアンチ・ドーピングをテーマとして実験、調査、およびディスカッションを行うことにより、運動がからだにおよぼす影響を系統的に理解できる能力を養う。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (一般教養・倫理、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	栄養素および生体内の代謝を理解し、運動に関する実験・調査を行うための知識を身につけることができる。			○	○			40	
■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○						30	
■技能的領域	実験のテクニックや機器の操作方法を習得し、データの解析に必要な統計学的手法を身につけることができる。	○						30	
成績評価の基準	ゼミナールの到達目標は、最終的に卒業研究の完成を目指すことにあり、そのために努力を行ったかということを評価の基準とする。								
テキスト、教材 参 考 書	入村達郎 訳『ストライヤー生化学』（トッパン） 上代淑人 訳『ハーバー生化学』（丸善）								
履修条件・ 関連科目	分野科目の偏りなく履修しておくことが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		自らの目標に向かって、自主的に努力を行ったという満足感を感じ取ってほしい。			
オフィス・アワー	随時 307 研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	吉田 剛一郎	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・からだの構造と機能について学ぶ。 ・実験・実習に対する態度と基本的なテクニックを身につける。					・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。		
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・糖質、脂質、タンパク質などのからだを構成する物質、およびその代謝に必要なビタミンとミネラルについて学ぶ。 ・実験のテクニックや機器の操作方法を習得する。 ・データの解析に必要な統計学的手法を身につける。					・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。		
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・運動時の水分出納・エネルギー代謝、エネルギー産生とビタミン（カルニチン欠損マウスを用いて）、練習を繰り返す根拠となる生体内代謝と遺伝学的背景、栄養素補給のタイミング、疲労とその対策、アンチ・ドーピングなどについて学ぶ。 ・ディスカッション、および卒業研究を行うことによりその理解度を深める。					・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。		

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	廣津 匡隆				補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数	－		
授業の概要	健康科学的な各分野からアプローチし、スポーツと健康についての深い知識の学修と研究方法の修得を目指す。本授業では救急処置法、整形外科的疾患に対する運動療法、リハビリテーション、身体障害者スポーツ、運動と骨代謝などについて概説することにより、スポーツ医科学的な事項について教授する。これにより、スポーツ指導者にとって必須の医科学的知識が身につくことが期待される。この授業は、健康科学的な研究分野を通じて、本学の教育目標における「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する課題解決に向けて取り組めるような能力」を身につける科目です。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (コミュニケーション力、専門的な知識・ 教養)	授業期間			定期 試験	割合 %		
			授業	テスト	レポート			発表	
		■認知的領域	リハビリテーション、救急処置法の正確な実施方法について理解できる。整形外科的疾患に対する運動療法を説明し、新たな解決方法を提示する。		○		○		40
		■情意的領域	身体障害者スポーツ・運動療法などに対し、主体的に取り組み、作業課題を遂行できる。運動と骨代謝について興味関心を持つことができる。	○					30
■技能的領域	ゼミ活動に継続的に参加し、スポーツ医科学的な事項について演習できる。健康的なスポーツ指導が、正確に実施できるようにする。	○					30		
成績評価の基準	授業期間における意欲、テスト、発表などを総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参 考 書	参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」小出清一他編集（南江堂）、「スポーツリハビリテーションの臨床」青木治人他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、「スポーツ整形外科学」松本秀男他著（文光堂）								
履修条件・ 関連科目	救急処置論・実習、アスレチックトレーナー論、スポーツ医学、障害者スポーツ論を履修することが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)		このゼミナールでは、一律不変の内容を講義するのではなく、各学生の希望学習分野に応じて、できるだけ能動（流動）的な授業を展開する。「白熱した授業」になるようにお互いに積極的に討論できることを目指す。				
オフィス・アワー	廣津：水曜日 10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室 （要予約）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	廣津 匡隆	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・「救急処置法」、「アスレチックトレーナー論」などについて検討し、考究する。 ・各自の興味、関心に基づくテーマを決定し、資料収集、分析、考察、抄読会などを行う。検討内容に関しディスカッションを加え、演習を行う。			・学習、討論会、抄読会においては、順番に発表などを行う。（16時間） ・レポートを適時に作成する（4時間）				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・「スポーツ医学」、「整形外科的疾患に対する運動療法」などについて検討し、考究する。 ・各自の興味、関心に基づくテーマを決定し、資料収集、実験・測定法などの実習、学習・討論会、抄読会などを行う。検討内容を卒業研究に発展させるため、卒業研究の意義、研究計画の作成、資料分析方法などについて理解を深める。			・学習、討論会、抄読会においては、順番に発表などを行う。（8時間） ・卒業研究に向けての資料収集と分析を進める（8時間） ・レポートを適時に作成する（4時間）				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・「身体障害者スポーツ」、「運動と骨代謝」などについて検討し考究する。 ・健康的なスポーツ指導者にとり必須の知識を修得し、スポーツ指導などが正確に施行可能な技術水準に到達する。 ・各自のテーマを決定し、資料収集、データ処理法などの学習、討論会などを行う。 ・学習内容を卒業研究としてまとめるため、論文作成・発表方法など検討する。			・卒業研究論文を作成し、修正を加え、完成させる（16時間） ・レポートを適時に作成する（4時間）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2100)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	沼尾 成晴					補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	2～4		受け入れ人数		－			
授業の概要	肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文を講読して、それらに対する見識を高める。また、実験や測定を通して、研究方法を学びながら、データを分析・評価する能力やそれらを適切に表現・発表できる能力を高めることを目指している。										
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文をまとめ、研究手法の理解や研究課題の発見ができる。	○		○	○			30
			■情意的領域	先行研究の探索、発表、討論および実験測定への参加など積極的に自らの課題解決へ取り組むことができる。	○			○			40
■技能的領域	研究の背景、目的、方法、結果、考察を論理的かつ明瞭にまとめ、わかりやすく発表できる能力を身につける。	○			○			30			
成績評価の基準	卒業論文の作成に向けた取組状況とともに、授業への参加状況や発表などを総合的に評価する。										
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料等を紹介・提供する。										
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)		健康づくりや生涯スポーツなどに強く興味があり、将来の目標と関連づけながら学ぼうとする姿勢を期待します。また、何事にも積極的に取り組むことを望みます。						
オフィス・アワー	随時：研究棟4階 406研究室 (不在の時もあるため、事前にメール(numashige@nifs-k.ac.jp)で連絡することが望ましい)										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	沼尾 成晴	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 運動処方について調査し、運動処方にに関する基礎的な知識を深める。また、調査した内容について発表する。				運動処方にに関する資料を収集する。					
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文を講読して、研究課題などを討論し、自身の卒業論文のテーマを検討する。				自身で興味関心のある研究課題を探索し、その課題の解決方法（測定方法など）に関する発表資料を作成する。					
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業論文の作成に向け、調査や測定などを実施し、得られた結果を分析・考察してその内容を適切に発表できるようにする。				調査や測定などの予定や結果などの資料の作成やデータを分析する方法（統計解析など）について自ら情報を収集する。					

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2100)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール（卒業研究）)		
担当教員名	高井 洋平					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	本ゼミナールでは、実験実習を通じて、トレーニングをキーワードに、人間の身体組成や筋機能の可塑性ならびに運動パフォーマンスの変化に関する知識を習得するとともに、研究の目的に応じてデータを分析・評価・総括する能力、およびデータに基づいた議論ができる能力を身に付けることを目指す。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	自己のテーマにそった先行知見の網羅、実験方法、データの採取・分析方法の習得			○	○			50
		■情意的領域	実験実習・ゼミ内でのディスカッションにおける積極的な参加						○ (実験実習)	20
■技能的領域	先行知見のレジユメの作成・データのプレゼンテーション能力の向上				○		○ (実験実習)	30		
成績評価の基準	知識：実験手法、データ分析、教科書および学術論文の数 技能：プレゼンテーションおよびレポートの内容（データの解釈、研究の構成および着眼点） 態度：実験・ディスカッションへの参加、他者の実験への積極的な協力									
テキスト、教材 参 考 書	スポーツ科学、トレーニング科学に関連する領域の教科書および学術論文									
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	随時可能（スポーツトレーニング教育研究センター2階，教員室2）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	高井 洋平	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 テーマを決めて実験実習を行い、互いに検者と被検者をやりながら、実験の難しさ、データ取得および分析の大変さを学ぶ。				授業の進行に合わせて、プレゼンテーションおよびショートレポートの提出を適宜指示する。				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 テーマを決めて実験実習を行い、互いに検者と被検者をやりながら、ヒトを対象とした実験手法を取得する。得られたデータに基づき、分析の視点、プレゼンテーションの方法を学ぶ。さらに、テーマに関連した解説記事等を参考に、データを総括するためのレポートの作成技術を高める。適宜、実験・データの解析についてのプレゼンテーション・ショートレポートの提出を課す。				授業の進行に合わせて、プレゼンテーションおよびショートレポートの提出を適宜指示する。				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 各自の研究テーマを確定し、実験・データの分析を行う。研究テーマに関連した論文を読み、自身のデータの解釈・考察する能力を鍛える。定期的に実験の進捗状況、得られたデータについてプレゼンテーションを行う。発表を通して、実験結果の解釈を深めると同時に、互いのディスカッション能力を鍛える。また、定期的にショートレポートを提出し、それに基づくミーティングを行うことで論文作成技術を高め、卒業論文の完成を目指す。				卒業論文の作成についてテーマ別のミーティングを実施し、卒業論文の内容に関連した課題を適宜課す。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	與谷 謙吾					補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	2		受け入れ人数		－			
授業の概要	本ゼミナールは、身体パフォーマンスにおける神経-筋機能や活動様式を明らかにするために、様々な機器(筋電図や磁気刺激等)を使用して研究を進める。										
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (課題解決力、科学的表現力(科学的支援力、専門的な知識・教養))		授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
		授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	生理学を基礎とし、動物機能に関わる知識・課題が理解できる		○		○	○			40
		■情意的領域	実験・実習に対して検者や被検者として積極的に参加する		○						30
		■技能的領域	卒業論文作成に向けた実験機器の操作や解析法ができるようになる		○						30
成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。										
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて紹介する。										
履修条件・ 関連科目	運動生理学、解剖生理学、バイオメカニクスを履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		特になし。					
オフィス・アワー	研究棟3階 306研究室、研究棟2Fバイオメカニクス実験室(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです:yotani@nifs-k.ac.jp)										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	與谷 謙吾	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 担当教員や先輩の実験に積極的に参加し、実験の流れや雰囲気をつかむ。また、興味があるテーマを模索する。				配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCi NiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。					
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 担当教員や先輩の実験に積極的に参加し、実験の手続きや雰囲気をつかむ。また、興味があるテーマを模索する。				配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCi NiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。					
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 卒業論文作成のために研究テーマを定め、実験・データ分析を行う。また、得られた結果を基に、明確なプレゼンテーションができるようにする。				卒業論文作成に取り組む。(随時)					

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))				
担当教員名	宮崎 輝光				補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	3	受け入れ人数	—				
授業の概要	スポーツにおいて何気なく目にする物体や身体の運動を力学現象としてとらえ、観察・説明する能力を習得する。本ゼミナールでは、スポーツバイオメカニクスにおける専門知識を学ぶとともに、各自の興味のに基づく課題設定を設定し、自身で解決に至るプロセスを経験することで、論理思考や自身の計画をマネジメントする能力を習得する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D P で 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	ヒトの身体をはじめとするスポーツ場面における運動を力学現象としてとらえ、説明することができる。			○	○			40
		■情意的領域	関連する情報収集を行うことができる。 自身の意見をもち、積極的に議論に参加することができる。	○		○	○			30
■技能的領域	各種測定機器を適切に使用できる。 基本的なアカデミックライティングやプレゼンテーションを身につける。	○		○	○			30		
成績評価の基準	出席は最低条件とし、議論参加に対する積極性、レポートや発表内容などを総合的に判断する。									
テキスト、教材 参 考 書	『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良、藤井範久、朝倉書店（2002） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀、吉岡伸輔、ラウンドフラット（2011） 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版』【監訳】坂井建雄、松村譲児、医学書院、2016 『筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版』【著】Donald A.Neumann, 医歯薬出版株式会社、2018									
履修条件・ 関連科目	バイオメカニクス 体育学実験Ⅱ（バイオメカニクス）		備考(教員メッセージ含む)	動作分析は、基本的な数学と力学の知識が必要となります。そのほかにも、解剖学や運動学の知識も動作のメカニズムを考えるうえで重要となります。そのため、これらの知識が不足する場合は時間外学習を行い、各自で補うこと。バイオメカニクスの実験ではさまざまな機器を扱います。そのため、他人の実験などに積極的に参加し、機器の取り扱いや実験設定を習得すること。						
オフィス・アワー	随時 研究棟4階 408教員研究室（t-miyazaki@nifs-k.ac.jp）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	宮崎 輝光	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・ヒトの身体運動のメカニズムを理解するために、動作分析、解剖学、運動学、生理学の基本的な事柄を学ぶ。 ・さまざまな実験を通じて、バイオメカニクス分野で用いられる実験機材（三次元動作測定装置、地面反力計、表面筋電計、超音波画像診断装置、筋力測定器など）の取り扱いやデータ分析の方法を理解する。 ・国内外の文献の検索方法（PubMedやWeb of Scienceなど）を学び、興味のあるスポーツ動作について、教科書や国内外の文献を通じて調査する。 ・予備実験を行い、その結果と考察についてプレゼンテーションやレポート作成を行う。			・授業で課した課題を行うこと。 ・各授業で生じた疑問点を解消する。 ・不足する知識や、興味のあることを学習すること。					
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・さまざまな実験を通じて、バイオメカニクス分野で用いられる実験機材（三次元動作測定装置、地面反力計、表面筋電計、超音波画像診断装置、筋力測定器など）の取り扱いやデータ分析の方法を理解する。 ・国内外の文献の検索方法（PubMedやWeb of Scienceなど）を学び、卒業研究に向けて、興味のあるスポーツ動作について、教科書や国内外の文献を通じて調査する。 ・卒業研究の予備実験を行い、その結果と考察についてプレゼンテーションやレポート作成を行う。			・授業で課した課題を行うこと。 ・各授業で生じた疑問点を解消する。 ・不足する知識や、興味のあることを学習すること。					
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・卒業研究のテーマに関する国内外の文献を調査し、まとめる（レポート作成、プレゼンテーション）。 ・3年次の活動を基に、卒業研究のテーマを決め、研究計画を立案する。 ・予備実験および本実験を行い、分析と考察を進める。			・授業で課した課題を行うこと。 ・各授業で生じた疑問点を解消する。 ・不足する知識や、興味のあることを学習すること。					

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	山田 理恵				補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	－			
授業の概要	体育・スポーツ史の研究法および叙述の仕方を修得し、人間の身体運動をめぐる諸現象について歴史的に論じ考察を行う。また、近接分野からのアプローチも行う。それらを通して、現代社会における体育・スポーツの意義や在り方を考究する。 それらによって、専門的な知識を活用し、論理的に考え表現できる能力、課題解決に向けて考え実践できる能力を身につけることが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	体育・スポーツ史の研究法を修得する。さらに、近接分野の研究法についても理解する。史料の収集法を修得し、史料吟味について理解する。	○			○			50
		■情意的領域	ディスカッションに積極的に参加する。課題に意欲的に取り組む。	○			○			50
□技能的領域										
成績評価の基準	授業および課題に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	国内外の著名な文献を適宜用い、必要に応じて資料を配付する。また、参考書は適宜紹介する。									
履修条件・ 関連科目	「体育・スポーツ史」「歴史・社会学」の両方を履修していることが望ましいが、少なくとも「体育・スポーツ史」を履修していること。			備考(教員メッセージ含む)		活発なディスカッションと主体的な研究テーマの追究に取り組むことを期待する。				
オフィス・アワー	随時（705研究室）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	山田 理恵	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 体育・スポーツの歴史的、歴史人類学的研究に関連する著名な文献を購読しながら、最新の研究成果を学ぶとともに研究の動向を分析し、問題意識を高める。また、体育・スポーツ史の研究法を修得する。さらに、近接分野の研究法についても理解する。それらの過程において各自が興味・関心を持ったテーマについて文献・資料を収集し、検討する。成果を各自発表し、ディスカッションする。				○関連する領域の文献等の予習・復習（毎回30分以上）				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 体育・スポーツの歴史的、歴史人類学的研究に関連する著名な文献を購読しながら問題意識を高める。各自が興味・関心を持ったテーマを卒業研究に向けて設定、そのテーマに関連する先行研究を検討し、史料の調査・収集および史料吟味を行う。必要に応じて、近接分野の研究法も援用する。成果を各自発表し、ディスカッションする。				○関連する領域の文献等の予習・復習 ○卒業研究に関連する文献・史料の調査・収集、史料吟味 ○卒業研究の研究計画の作成				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究として設定した研究テーマについて、継続して、先行研究の検討、史料の収集と吟味を行い、それらをもとに考察する。最終的にはその成果を卒業研究として論文にまとめ、発表会において発表する。				○卒業研究の論文作成 ○発表会の資料作成				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)			授業形態	演習		授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	森 克己						補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次		受け入れ人数	－		
授業の概要	スポーツと法並びに子どもの人権に関する文献を研究することにより、スポーツの法的問題や子どもの人権について考える基本的な知識・考え方を身につけるとともに、学生個人の研究テーマに沿った研究指導を行うことを目標とする。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	スポーツと法に関する問題の知識・考え方を身に付ける。 子どもの人権に関する問題の知識・考え方を身に付ける。	○			○			50
		■情意的領域	スポーツと法並びに子どもの人権に関するテーマについて問題意識を持って授業に積極的に臨んでいる。	○			○			50
□技能的領域										
成績評価の基準	標記の到達目標に基づき、学生の演習への参加、発表の内容・態度を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	スポーツと法並びに子どもの人権に関する文献・資料を適宜指導教官が提供するとともに、学生各自が自分の卒業研究テーマに関する文献・資料を持ち寄り、それらの文献・資料に基づき演習を行う。									
履修条件・ 関連科目	スポーツと法、人権論、日本国憲法を履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー										
授業計画										
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	森 克己	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 今年度は、次のテーマなどについて演習を行う。 (1) スポーツの権利性 (2) スポーツ選手の人権問題（指導者による体罰問題の現状と対策、パブリシティの権利、ドーピング問題への対応など） (3) スポーツ事故の判例研究・リスクマネジメント (4) イギリススポーツ法の研究（ユニバーサル・アクセス権、スポーツ団体のchild protection 制度など） (5) スポーツintegrityの問題 (6) 学校教育と子どもの人権問題（いじめ、体罰、虐待、モンスターペアレントなど）					授業での発表の準備、予習・復習（各回30分以上）			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 今年度は、次のテーマなどについて演習を行う。 (1) スポーツの権利性 (2) スポーツ選手の人権問題（指導者による体罰問題の現状と対策、パブリシティの権利、ドーピング問題への対応など） (3) スポーツ事故の判例研究・リスクマネジメント (4) イギリススポーツ法の研究（ユニバーサル・アクセス権、スポーツ団体のchild protection 制度など） (5) スポーツintegrityの問題 (6) 学校教育と子どもの人権問題（いじめ、体罰、虐待、モンスターペアレントなど）					授業での発表の準備、予習・復習（各回30分以上）			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 今年度は、次のテーマなどについて演習を行う。 (1) スポーツの権利性 (2) スポーツ選手の人権問題（指導者による体罰問題の現状と対策、パブリシティの権利、ドーピング問題への対応など） (3) スポーツ事故の判例研究・リスクマネジメント (4) イギリススポーツ法の研究（ユニバーサル・アクセス権、スポーツ団体のchild protection 制度など） (5) スポーツintegrityの問題 (6) 学校教育と子どもの人権問題（いじめ、体罰、虐待、モンスターペアレントなど）					授業での発表の準備、予習・復習（各回30分以上）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	森 司朗					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	心理学の諸理論を主とした体育学の知識を教育、スポーツ・武道などの現実場面に応用すること、また現実場面で生じる現象の生起メカニズムについて心理学的な視点から考究することを目指す。具体的には、各々が興味を持った心理学的知見及び現象を深く探求し、課題を設定し、それに関わる調査や実験を中心とした研究手法の獲得から、研究結果の効果的な発表技法、論文としてのまとめ方の習熟を通して、各々が特定の領域に対する実践力ある知を形成することを目指す。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	体育・スポーツ場面の解決すべき課題について、具体例をあげ説明できる。 体育・スポーツ場面における解決すべき課題について、心理学理論に基づいて説明できる。 既存の理論では説明できない問題をあげることができる。				○			40
		■情意的領域	心理学理論について積極的に文献調査を行い、ディスカッションによって課題を深めることができる。 実験・調査に主体的に取り組むことができる。	○						30
■技能的領域	実践的、理論的根拠をつけた意見を述べる ことができる。 各種測定機器を利用できる。 科学論文の基本形式について理解し、レポートすることができる。	○			○			30		
成績評価の基準	2/3以下の出席の場合は評価しない。基本的な授業形態が発表のため、発表資料の提出やプレゼンで使用したパワーポイントを総合的に評価する。授業中の議論への積極性を評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。									
履修条件・ 関連科目	2年生 教育心理学、スポーツ心理学、スポーツカウンセリング論、体育学実験Ⅰ・Ⅱ 3年生 上記に加え、教育相談・カウンセリング、応用スポーツ心理学 4年生 上記すべて			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	随時									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	森 司朗	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 心理学における基本的な諸理論の学習として、受講者全員が興味のある心理学的知見について資料を収集しまとめて発表する。また、発表者、聴講者相互に知識を深めるためにディスカッションを行い、レポートとしてまとめ発表者に提出する。				学術書、論文などを収集し、発表の準備を行う。 発表後にはレポートとしてまとめる。				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 2年次に得た心理学的知識を利用して、現実場面において生じる興味のある現象について発表し、ディスカッションを通して考究する。また、各々が興味を持った現象や疑問がどのようにすれば解決されるかについて文献調査した後、調査、実験についての案を考え基礎的なデータを得る。これらの活動を通して、疑問を調査、結果をまとめる技能を獲得する。				現実場面で生じる現象を心理学的な知見から考究するための調査、資料収集を行う。				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 3年次の活動を通して得た資料やデータを再度精査し、教育、体育、スポーツに対する自己の疑問を卒業論文としてまとめるために、本調査、実験を行い現場への応用を目指す。				卒業論文の作成に関する調査・実験、発表、まとめを行う。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)			授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	北村 尚浩						補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次		受け入れ人数	－		
授業の概要	生涯スポーツについての理解を深めるとともに、社会現象としてのスポーツについて社会科学研究の視点から考察する。また、各種イベントや調査測定等の現場での体験を通して実践的な能力を修得する。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	生涯スポーツの概念について理解する 生涯スポーツ政策について理解する	○			○			40
		■情意的領域	課題に積極的に取り組むことができる。	○			○			30
		■技能的領域	適切な日本語表現でレポートを書くことができる プレゼンテーションを通して自分の意見を発表することができる	○		○	○			30
成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	生涯スポーツ実践論（市村出版）									
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ・レクリエーション&ゲームズ、スポーツ社会学、情報処理A、情報処理C 未履修者は3年次、4年次で履修すること。また、3年次の社会調査論を履修すること。			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	随時（610研究室）kitamura@nifs-k.ac.jp									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	北村 尚浩	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・ニューススポーツを中心としたスポーツ種目に関する知識を学習する ・レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎を学習する ・日本におけるスポーツ政策について学ぶ				生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的な指導力を修得する。				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・ニューススポーツを中心としたスポーツ種目に関する知識と技術を修得する ・レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎を修得する ・スポーツにおける社会学的研究法の基礎について学習する ・各自の興味・関心に応じた文献を収集して抄録にまとめ、発表・ディスカッションを行なう				生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的な指導力を修得する。				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・卒業研究のための資料収集、調査・分析方法について学習する ・プレゼンテーションの技法を修得し、卒業研究に関するディスカッションを通して、その能力を高める ・卒業研究を通して、生涯スポーツや社会現象としてのスポーツに関する知識を深める				生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的な指導力を修得する。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	関 朋昭					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2 年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	スポーツマネジメントやマーケティングに関する知識や技能、興味関心を持つ等の態度を身につけ、各自がスポーツについて自分なりの理解ができ、説明ができ、ディスカッションできることを目標としている。課題解決力、科学的表現力が身につくことが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D P で 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する幅広い知識を獲得する。			○	○			30
		■情意的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する事例や研究について興味・関心を持ち、積極的に探究する姿勢を持つ。	○		○	○			30
		■技能的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する課題発表、研究発表、またはそれに関するディスカッションができる。	○			○			40
成績評価の基準	2/3 以上出席したものを評価の対象者とする。									
テキスト、教材 参 考 書	「スポーツマーケティング」原田宗彦編著、大修館書店、2008 など									
履修条件・ 関連科目	スポーツマネジメント概論、スポーツ社会学、スポーツ産業論、スポーツマーケティング論			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	604研究室 月曜日 16-17時 seki@nifs-k.ac.jp									
授業計画										
回	担当教員名		授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	関 朋昭		ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。				各種セミナー等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画			
2	〃		ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。 ・卒業研究のテーマを決定する。				課題発表のための情報収集、資料作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画			
3	〃		ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究の作成、発表 ・資料収集、研究計画の立案、データ収集、データ集計・分析、考察、まとめ、発表。 (発表時期； 5月中旬：プロポーザル、10月下旬：中間、1月中旬：最終)				卒業研究の作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	和田 智仁					補助担当者名		迫田 和之	
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		－	
授業の概要	競技スポーツやスポーツ科学の研究において、コンピュータやネットワークなどの情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)が様々な形で活用されている。本ゼミナールでは、スポーツやスポーツ科学に利用されるICT、特に映像や各種センサーを用いた分析・測定技術について、文献調査や発表・ディスカッション等を通じて理解を深めるとともに、実際の競技での利用など演習を行う。これらによりICTのスポーツ領域における実践的な活用能力を修得することを目的とする。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 ％
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	コンピュータとネットワークの基本的構成や特性を理解する。 動画の撮影や取り扱いに関する知識を有し、スポーツに応用できる。	○		○				25
	■情意的領域	関連する事項に興味・感心を持ち、必要となる情報を主体的に調査・収集する。また、それを実践する。 ゼミでの議論に積極的に参加する。	○			○			50
■技能的領域	スポーツ活動にコンピュータやタブレットを活用することができる。 スポーツ活動に関するビデオ撮影や編集を行うことができる。	○			○			25	
成績評価の基準	課題に対する取り組み状況と、担当教員と共に設定した個人別の学習目標への到達度などから評価する。								
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介する								
履修条件・ 関連科目	情報処理A, 情報処理B,トレーニング科学概論、バイオメカニクスを履修していること。情報処理Cを履修すること。			備考(教員メッセージ含む)					
オフィス・アワー	事前連絡 研究棟 4階 405教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	和田 智仁	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 コンピュータとネットワークに関する基礎的な理論について理解し、これを利用できるようにする。 また、学内に存在する各種の実験・測定機器、解析ソフトウェア等を調査し、それぞれの特徴や活用事例について理解する。				関連する事項に興味を持って広く情報を収集し、発表・レポート提出に備える。			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 学内の実験・測定機器、解析ソフトウェア等を利用し、その操作方法を身につける。 スポーツにおけるICT 活用に関する国内外の事例を論文などから調査研究する。				学内で行われている実験・測定等に積極的に参加し、操作技術などを習得する。 関連研究を調査する。			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 各自の研究テーマを決定した上で研究計画を策定し、それぞれのテーマについて実践的な活動を通じて研究を進めていく。 同時に、論文作成や発表の方法などについても学習を行う。				関連研究を調査する。 実験やビデオ分析等の実践的な活動を、計画に従って着実に実施する。			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))				
担当教員名	浜田 幸史				補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	7人				
授業の概要	中学校・高等学校教諭(保健体育)に必要な不可欠な資質・能力を育成するために、学習指導要領、学校関係法令についての理解を深めたり、現代的な諸問題に関する教育内容についての考察を行ったりする。具体的には、関連書籍の精読や関連情報の分析を基に、他者との討論やワークショップ等を行い、学校教育(主に体育や保健)の見方・考え方を広げたり深めたりする。卒業研究については、各自のテーマに関連する先行研究や各種調査結果、関係法令等を調べたり、アンケート調査やインタビュー調査等を行ったりして、課題を明確にしたり、仮説を検証したりして、課題の解決策を講じるなど持論を展開できるようにする。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (科学的支援力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	学校教育全般や保健体育科教育についての課題を発見したり、解決策を講じたりしている。	○		○	○			20
		■情意的領域	学校教育全般や保健体育科教育についての課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断しようとする。	○			○			30
■技能的領域	学校教育全般や保健体育科教育についての課題や解決策を他者にわかりやすく伝えることができる。	○		○	○			50		
成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のと通りの割合で、授業への参画状況や、レポート、プレゼンテーション等の内容から総合的に評価します。									
テキスト、教材 参 考 書	必要な資料については、授業で配付します。教材・参考書については、授業で適宜紹介します。									
履修条件・ 関連科目	中学校・高等学校教諭(保健体育)を目指しており、学校教育全般や保健体育科教育についての課題を発見し、解決したいと考えている者の履修を認めます。関連科目は、教職科目全般、主に保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳです。		備考(教員メッセージ含む)		志ある中学校・高等学校教諭(保健体育)として、世のため人のために働きながら、自己の向上を図っていきけるよう、熱い思いを交流し、活動を楽しみながら、主体的・対話的で深い学びを展開していきましょう。					
オフィス・アワー	随時：研究棟6階608教員研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	浜田 幸史	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 学校教育関連書籍の精読や関連情報の分析を基に、他者との討論やワークショップ等を行い、学校教育の見方・考え方を広げたり深めたりする。			授業の復習、レポートの作成等(30時間)					
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 保健体育科教育関連書籍の精読や関連情報の分析を基に、他者との討論やワークショップ等を行い、体育や保健の見方・考え方を広げたり深めたりする。			授業の復習、レポートの作成等(30時間)					
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 各自のテーマに関連する先行研究や各種調査結果、関係法令等を調べたり、アンケート調査やインタビュー調査等を行ったりして、課題を明確にしたり、仮説を検証したりして、課題の解決策を講じるなど持論を展開できるようにする。			授業の復習、卒業研究等(90時間)					

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)			授業形態	演習		授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	隅野 美砂輝						補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次		受け入れ人数	－		
授業の概要	スポーツマネジメントやマーケティングに関する知識や技能、興味関心を持つ等の態度を身につけ、各自がスポーツについて自分なりの理解ができ、説明ができ、ディスカッションできることを目標としている。課題解決力，科学的表現力が身につくことが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する幅広い知識を獲得する。			○	○			30
		■情意的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する事例や研究について興味・関心を持ち、積極的に探究する姿勢を持つ。	○		○	○			30
		■技能的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する課題発表、研究発表、またはそれに関するディスカッションができる。	○			○			40
成績評価の基準	2/3 以上出席したものを評価の対象者とする。									
テキスト、教材 参 考 書	「スポーツマーケティング」原田宗彦編著、大修館書店、2008 など									
履修条件・ 関連科目	スポーツ経営管理学概論、スポーツ社会学 スポーツ産業論、スポーツマーケティング論			備考(教員メッ セージ含む)						
オフィス・アワー	501研究室 月曜日 16-17時 msumino@nifs-k.ac.jp、501 教員室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	隅野 美砂輝	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。				各種セミナー等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画				
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。 ・卒業研究のテーマを決定する。				課題発表のための情報収集、資料作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画				
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 卒業研究の作成、発表 ・資料収集、研究計画の立案、データ収集、データ集計・分析、考察、まとめ、発表。 (発表時期； ５月中旬：プロポーザル、10月下旬：中間、1月中旬：最終)				卒業研究の作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	中本 浩揮				補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	－			
授業の概要	心理学の諸理論を主とした体育学の知識を教育、スポーツ・武道などの現実場面に応用すること、また現実場面で生じる現象の生起メカニズムについて心理学的な視点から考究することを目指す。具体的には、各々が興味を持った心理学的知見及び現象を深く探求し、課題を設定し、それに関わる調査や実験を中心とした研究手法の獲得から、研究結果の効果的な発表技法、論文としてのまとめ方の習熟を通して、各々が特定の領域に対する実践力ある知を形成することを目指す。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ場面の解決すべき課題について、具体例をあげ説明できる。 体育・スポーツ場面における解決すべき課題について、心理学理論に基づいて説明できる。 既存の理論では説明できない問題をあげることができる。				○			40
	■情意的領域	心理学理論について積極的に文献調査を行い、ディスカッションによって課題を深めることができる。 実験・調査に主体的に取り組むことができる。	○						30
■技能的領域	実践的、理論的根拠をつけた意見を述べる ことができる。 各種測定機器を利用できる。 科学論文の基本形式について理解し、レポートすることができる。	○			○			30	
成績評価の基準	2/3以下の出席の場合は評価しない。基本的な授業形態が発表のため、発表資料の提出やプレゼンで使用したパワーポイントを総合的に評価する。授業中の議論への積極性を評価する。								
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。								
履修条件・ 関連科目	2年生 教育心理学、スポーツ心理学、スポーツカウンセリング論、体育学実験Ⅰ・Ⅱ 3年生 上記に加え、教育相談・カウンセリング、応用スポーツ心理学 4年生 上記すべて			備考(教員メッセージ含む)					
オフィス・アワー	随時								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	中本 浩揮	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 心理学における基本的な諸理論の学習として、受講者全員が興味のある心理学的知見について資料を収集しまとめて発表する。また、発表者、聴講者相互に知識を深めるためにディスカッションを行い、レポートとしてまとめ発表者に提出する。				学術書、論文などを収集し、発表の準備を行う。 発表後にはレポートとしてまとめる。			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 2年次に得た心理学的知識を利用して、現実場面において生じる興味のある現象について発表し、ディスカッションを通して考究する。また、各々が興味を持った現象や疑問がどのようにすれば解決されるかについて文献調査した後、調査、実験についての案を考え基礎的なデータを得る。これらの活動を通して、疑問を調査、結果をまとめる技能を獲得する。				現実場面で生じる現象を心理学的な知見から考究するための調査、資料収集を行う。			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 3年次の活動を通して得た資料やデータを再度精査し、教育、体育、スポーツに対する自己の疑問を卒業論文としてまとめるために、本調査、実験を行い現場への応用を目指す。				卒業論文の作成に関する調査・実験、発表、まとめを行う。			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	梶 ちか子					補助担当者名			
単位数	4 単位		履修年次	2-4年次		受け入れ人数		7	
授業の概要	2.3年次には、「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献の分析を行い、教育方法上の原理について基礎的・基本的な知識を修得する。また、中学校・高等学校における保健体育科の目標、内容、指導法等について学習指導要領に基づき学習し、ディスカッションやプレゼンテーション等を通して、保健体育科の特性を生かした指導方法や指導技術等の実践的指導力を育成する。さらに、4年次には、各自が設定した「保健体育」の授業づくりに関するテーマについて、研究計画を作成し、先行研究や各種調査結果、関係法令等の調査及びアンケート・インタビュー・授業実践等を行う。それらの研究結果・考察についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、課題解決能力を高める。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (科学的支援力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・「保健体育」の授業づくりに関する教育方法上の基礎的・基本的な事項を説明できる ・「保健体育」の授業づくりに関して、保健体育科教育学的視点から、課題を見つけ、その解決法を提案する ・設定したテーマについて、保健体育科教育学的視点から、分析・評価する	○		○	○			40
	■情意的領域	・「保健体育」に関連する様々なテーマについて興味・関心をもち、思考を深めた上で、自分の意見を他者に伝えようとしている。 ・学校体育全般に関わる現状や理論に興味・関心をもち、合理的解決に向けて、仲間と協力して探求しようとしている ・保健体育科教育学に関する最新の知見について興味・関心を持ち、研究計画に基づき、主体的に卒業研究に取り組もうとしている	○						20
	■技能的領域	・「保健体育」の授業づくりに関する課題を見つけ、その解決法について、パワーポイントを用いて発表することができる ・資料や文献を検索し、それらの内容についてポイントを絞って、他者にわかりやすくプレゼンテーションができる ・適切な表現と構成で、論文を作成することができる ・各自のテーマについて、設定された時間内で、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる	○		○	○			40
成績評価の基準	2.3年次では、授業の到達目標に基づき、レポートやディスカッション、プレゼンテーション等から、保健体育科教育学に関する知識の深化を判断する。 4年次では、3つの領域の授業の到達目標をもとに、授業への取組、作成された論文の内容、プレゼンテーション等から、判断する。								
テキスト、教材 参 考 書	中学校学習指導要領解説 保健体育編、高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 タブレットまたはパソコンを持参すること								
履修条件・ 関連科目	中学校・高等学校の保健体育教師を目指している者		備考(教員メッセージ含む)		高い実践的指導力のある教員の育成を目指しているため、ディスカッションやプレゼンテーションを数多く行い、レポート・論文作成等を頻繁に課す。学校教育・保健体育に関する今日的課題に高い関心、熱い思いを持ち、主体的に研究に取り組む学生を求む。				
オフィス・アワー	随時：研究棟7階703教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	梶 ちか子	ゼミナールⅠ（2年）1～30回 「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等を収集し、抄読を行い、中学校・高等学校における保健体育科の学習指導要領の内容を踏まえたディスカッションを行う。さらに、学習指導案に基づいた模擬授業を通して、実践的指導力の向上を図る。				「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等の収集、プレゼンテーションの準備、学習指導案の作成、教材開発等			
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 卒業研究につながる内容について、資料や文献等を収集し、予備調査等を実施して、プレゼンテーション及びディスカッションを行う。卒業研究のテーマを絞り込み、次年度の卒業研究へ繋げる。				研究テーマに関する資料、文献の収集、予備調査、プレゼンテーションの作成、研究計画の作成等			
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 各自が設定した「保健体育」の授業づくりに関するテーマについて、研究計画に基づき、調査・研究した結果についてプレゼンテーション及びディスカッションを行う。さらに卒業研究の完成に向け、論文を作成し、プレゼンテーションを繰り返しながら、研究の深化を図る。				先行研究や各種調査結果、関係法令等の調査及びアンケート・インタビュー・授業実践、論文作成、プレゼンテーション作成等			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))		
担当教員名	中村 勇					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		3		
授業の概要	武道に関する歴史、理論、思想、技術論、競技論、国際論など様々な分野について考究する。 武道の特定を理解し、各種武道に関する課題を検討する。 固定概念にとらえられず、客観的視野による研究および分析能力を身につけた新時代のニーズに見合った武道専門家を育成する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力 (課題解決力・一般教養・倫理、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	武道の基礎・応用・実践分野に関する様々な知識を習得している 武道に関する理論・学術研究の動向や内容について知識を持っている	○			○			50
		■情意的領域	武道に関して学術的興味を持っている 積極的に課題を解決する意欲を持っている	○			○			50
□技能的領域										
成績評価の基準	出席、取り組み状況、課題に対する発表、意見表明などの内容を総合的に評価する									
テキスト、教材 参 考 書	随時、提供する									
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義を受講していることが望ましい			備考(教員メッセージ含む)		日本武道学会への参加および学会大会への参加を希望する 柔道や剣道のみならず武道全般に興味がある学生を求める				
オフィス・アワー	水曜日 昼休み 3限目 他随意 研究棟503教員室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	中村 勇	ゼミナールⅠ（2年）1回～15回 武道に関する基礎知識、最新動向、資料の検索方法 ゼミナールⅠ（2年）15回～30回 武道に関する基礎知識、最新動向、資料の検索・読解方法				図書館などで資料収集とプレゼン準備（各回30分以上）				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 武道に関する文献資料の収集、ディベートやプレゼンテーション能力の向上				資料収集およびプレゼンテーション準備等（各回30分以上）				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・武道に関する学術研究論文の作成に関する資料収集、分析、執筆、プレゼンテーションの方法の習熟 ・武道に関する高度なディベート力の養成				武道に関する資料収集、資料作成等				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))			
担当教員名	坂口 俊哉				補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		—		
授業の概要	本ゼミナールでは、野外教育、レジャー・レクリエーションに関連する文献を検索、抄読する。最終的には、論文を完成させるために必要な「研究の手順」を身につけてもらうことが目標である。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	論文作成に必要な知識を身につける。			○	○			60
		■情意的領域	討論での積極的な発言（疑問点など）を行うことができる。	○			○			20
■技能的領域	メール、表計算、ワープロ、統計パッケージ、プレゼンテーションなどのソフトを使いこなすことができる。			○	○			20		
成績評価の基準	課題の提出、発表内容などを総合的に判断して評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	授業の中で紹介する。									
履修条件・ 関連科目	統計学や社会調査に関わる科目を履修しておくことが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		3年次の実習（必修）で、野外教育施設での実習を検討している学生にはこのゼミを選択してもらいたい。				
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp)。大学院生棟3F 教官室2									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	坂口 俊哉	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 テーマ：視野を広げる。論文作成に必要な基礎的スキルを身につける。 前期：レジャー・レクリエーションに関する国内・国外の現状や問題点について調べる。興味関心を持てるテーマを見つけ、テーマについて各自が調べ、その内容について報告し全員で討論を行う。 後期：授業では、レポート作成方法の初歩について学ぶ。				メール、表計算、ワープロ、プレゼンテーションなどのソフトを使いこなすための課題。各自プレゼンテーションを行い、レポートを提出する。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。				
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 テーマ：研究テーマの決定と研究計画の作成 前期：研究の目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。各種の統計手法を用いた研究論文を紹介する。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。 後期：卒業研究のテーマを絞り込む。そのためには、関連する先行研究を収集して、読みこなす作業を行う。研究の目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。各種の統計手法を用いた研究論文を紹介する。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。				国内・外のジャーナルに掲載された論文、総説、研究レポートなどを受講者全員で分担し、内容の要約を作成する。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。				
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 テーマ：各自、卒業研究のテーマを明確にし、論文を作成する。 前期：各自の研究テーマについて、目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。 後期：論文の作成。各自の進行状況に応じて助言・指導を行う。				研究に関する相談は随時受け付けるが、可能な限り、相談内容を文章化すること。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)		授業形態	演習		授業科目区分		専門科目 (ゼミナール(卒業研究))	
担当教員名	栗山 靖弘					補助担当者名			
単位数	4 単位		履修年次	4		受け入れ人数		—	
授業の概要	教育や体育・スポーツをめぐる現象や問題に対して社会学の手法を用いてアプローチする。具体的には、学校教育や体育・スポーツに関する文献を読み解き、受講者の関心を深める。また、質問紙調査、インタビュー調査、資料研究等の社会調査を通じて、学校教育や体育・スポーツに関する実態の把握と、得られたデータを解釈する力を身につけ、卒業研究を進める。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
			○		○				
			○		○				
■認知的領域	学校教育や体育・スポーツ分野に関する社会学的研究についての知識を身につける。 また、社会調査の方法を修得する。	○			○			40	
■情意的領域	関心のあるテーマや現象について主体的に情報を収集する。 ゼミでは積極的に議論に参加する。	○			○			30	
■技能的領域	社会調査の方法を身につける。	○			○			30	
成績評価の基準	ゼミでの発表、提出課題、レポートを総合的に評価表します。								
テキスト、教材 参 考 書	教育社会学・スポーツ社会学に関する文献を用いて、適宜資料を配付する。 参考書は適宜紹介する。								
履修条件・ 関連科目	教職課程科目を履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		議論に積極的に参加し、関心のあるテーマについて主体的・意欲的に取り組むことを期待します。			
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。 研究棟6階605教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	栗山 靖弘	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 学校教育や体育スポーツ関連の基礎的な文献を読み解くことで、知識の修得ならびに文献の読み方を身につける。また、ゼミ報告を通じて、文献の要約や文章作成の方法を身につける。				授業の復習、発表準備、レポート等の作成			
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 前期は、学校教育や体育スポーツ関連の文献を読み解き、知識の修得ならびに文献の読み方を身につける。また、ゼミ報告を通じて、文献の要約や文章作成の方法を身につける。 後期からは、卒業研究のテーマ設定に向けて、各自の関心のある分野についての文献講読と発表を行う。				授業の復習、発表準備、レポート等の作成			
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 卒業研究のテーマを設定したうえで研究計画を立てる。その中で、先行研究の検討と調査方法の選定を行い、卒業研究を進める。 また、論文作成やプレゼンテーションの方法等についても身につける。				授業の復習、発表準備、レポート等の作成			